

令和 6 年 度

事業報告書



社会福祉法人 大野福祉会

目 次

はじめに	1
I 総 務 課	2
財政運営（令和 6 年度 決算状況）	
防災・防犯対策 看護業務 給食業務	
II 救護施設 大野荘	12
事業の状況 利用者状況 個別支援計画 班活動 全体活動	
自治会（がんばろう会） 一時入所事業 居宅生活訓練事業	
III 障害者支援施設 むつみ園	23
事業の状況 利用者状況 個別支援計画 施設入所支援事業	
生活介護事業 短期入所事業 日中一時支援事業 全体活動	
IV 障害福祉サービス事業所 よもやま	33
事業の状況 利用者状況 就労継続支援 B 型事業 全体活動	
V 共同生活援助事業（グループホーム）	39
事業の状況 利用者状況 世話人会の開催 地域との交流	
VI 相談支援事業	41
指定特定相談支援・指定障害児相談支援 指定一般相談支援	
生活困窮者自立相談支援事業	
VII 地域公益事業	44
事業の状況 生活困難者総合相談・生活支援事業 緊急一時宿泊事業	
VIII 地域支援課	46
派遣研修実績 所内研修（大野荘・むつみ園） 復命報告	
各種研究会 行事企画 地域との交流活動 ボランティア	
広報誌の発行 教育実習	
IX 苦情解決報告	54
救護施設 大野荘 障害者支援施設 むつみ園	
障害福祉サービス事業所 よもやま	
共同生活援助事業所（グループホーム） 相談支援事業所	
ひやりはっと・事故報告 第三者委員の所見 意見箱	

は じ め に

今、日本を取り巻く状況をみてみますと、世界各地での紛争や関税による貿易戦争等、不確定要素がつよく不安定な世界情勢であり、異常な物価高騰やコメ不足など、これまででは考えられなかった事態が起きています。

さて、令和6年度の大野福社会の事業報告についてであります。各事業の詳細につきましては、別紙のとおり取り纏めさせていただきました。大野荘においては2月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、作業活動や日々の入浴、食事等利用者の生活に制限をお願いする事態となることがあり、感染に対する備えは怠ってはならないと、改めて思う事態でありました。また、昨年の石川県能登半島地震において、七尾更生園から避難された2名の方が6月に施設に戻られ、少しずつ元の生活に戻る第一歩ができたのではと、嬉しく感じる出来事もありました。

法人運営については、入所利用者の減少、重度・高齢化による要介護利用者の増加、これに人材不足と食料や燃料をはじめとした物価高騰が、法人運営に大きな影響を与えています。これら現在の状況を把握し社会情勢や事業実績を分析しながら、安定した事業運営が出来るよう努めて参りたいと思います。

今後も利用者の自立を育み人権を守りながら、利用者お一人おひとりの個別支援を基本として業務にあたっていきたいと思います。

令和7年5月

社会福祉法人 大野福社会

I 総 務 課

【1】財政運営（令和6年度 決算状況）

運営の透明性を確保するため財務諸表等については、ホームページ上にて詳細を掲載するが、各拠点区分の事業内容と共に前年度の収支比較により決算状況の報告をする。

電気料金や原油価格、物価高騰が続いており、特に給食費、水道光熱費、燃料費の支出が大幅に増額となっている。

①救護施設 大野荘

（単位：千円）

	R 5 年度	R 6 年度
収 入	362,447	388,122
支 出	347,300	379,987
積 立	0	0

（単位：人）

	R 5 年度	R 6 年度
延べ利用者数	1,382	1,382
月平均人数	115	115
入院延べ日数	2,737	3,457

収 入

- ・介護職員加算を1名算定し、看護師加算1名の加算認定となった。慢性的に入所者数は下回り、生活保護事業収入の安定には繋がらなかった。居宅生活訓練事業は利用者が2名となった月が5か月程あったが、施設機能強化推進費6,533千円の収入であった。また、生活困窮者支援事業は5,000千円で大野市と委託契約をして実施した。
- ・福井県の省エネ設備等支援事業補助金を利用し、男子寮2階・女子寮2階居室のエアコン14台を入れ替え総事業費5,190千円のうち2,000千円の補助金収入があった。
- ・福井県の救護施設環境整備支援事業にて、巡回用カメラおよび無線アクセスポイント（Wi-Fi環境）を整備し、総事業費4,640千円のうち1,110千円の助成金収入があった。
- ・大野市より物価高騰対策支援として年間1,780千円の給付があった。
- ・エアコン取替工事のため、5,700千円の施設整備積立資産を取崩して財源とした。

支 出

- ・年度途中に数名の採用があり、人件費支出は増大した。
- ・水道光熱費支出は、電気料金の値上げ、夏場の記録的な猛暑、冬場の大雪が影響し支出額が膨らんだ。
- ・利用者の介護度が増し、超低床フロアベッドを増台した。また、自動体外式除細動器（AED）本体の交換時期となり購入して入れ替えた。
- ・法人本部会計へ6,509千円、相談支援会計へ2,700千円繰り入れた。

②相談支援事業所 大野荘

(単位：千円)

	R 5 年度	R 6 年度
収 入	3,992	6,194
支 出	6,666	6,695
積 立	0	0

(単位：人)

延べ利用者数	R 5 年度	R 6 年度
計画相談	179	154
障害児相談	23	22
地域移行相談	16	0

収 入

- ・計画相談に対するサービス利用計画作成費として自立支援給付費収入が2,778千円となり、昨年度より841千円の減収であった。
- ・大野市より物価高騰対策支援として年間63,670円、また相談支援推進事業補助金として年間320千円の給付があった。

支 出

- ・障害福祉サービス等事業収入だけでは、事業運営ができず、不足する経費として、大野荘会計より拠点区分間繰入をして事業運営に充てた。

③障害者支援施設 むつみ園

(単位：千円)

	R 5 年度	R 6 年度
収 入	137,876	150,953
支 出	152,418	145,254
積 立	0	0

(単位：人)

延べ利用者数	R 5 年度	R 6 年度
生活介護	6,882	6,461
施設入所	9,818	9,212
短期入所	137	159
日中一時	181	179

収 入

- ・むつみ園の月平均利用者数は、生活介護24.0名、施設入所25.2名、短期入所4.1名の利用となった。報酬改定により重度障害者支援加算の要件が変更になり、強度行動障害を有する利用者に対する個別支援の充実を図り、障害福祉サービス等事業収入が11,815千円の増収となった。そのうち、大野市からの委託事業としての日中一時支援事業においては、前年度より55千円減収になった。
- ・温水器の新規取り付けと厨房機器の入れ替えのために施設整備積立資産2,900千円の取崩を行った。
- ・福井県の省エネ設備等支援事業補助金を利用し、厨房内の冷凍冷蔵庫および検食用冷凍庫を入れ替え、総事業費1,843千円のうち921千円の補助金収入があった。
- ・大野市より物価高騰対策支援として年間300千円の給付があった。

支 出

- ・施設整備では、厨房内の冷凍冷蔵庫と検食用冷凍庫を入れ替え、居室天井の張替工事を行った。設備面では、洗濯室と女子寮洗面所に小型電気温水器を新規で取り付けた。
- ・委託している給食業務について、人員不足の影響で提供体制変更での対応となったため

業務委託費支出は減少したが、食材費が値上がりし、給食費支出が大幅に増大した。

・水道光熱費支出は、電気料金の値上げ、夏場の記録的な猛暑、冬場の大雪が影響し支出額が膨らんだ。

④障害福祉サービス事業所 よもやま

(単位：千円)

(単位：人)

	R 5 年度	R 6 年度	延べ利用者数	R 5 年度	R 6 年度
就労支援事業収入	9,237	9,162	就労継続B型	3,425	3,155
就労支援事業支出	9,200	8,596			
収 入	30,122	28,364			
支 出	31,992	31,643			
積 立	0	0			

収 入

・就労支援事業収入は、リサイクル・食品加工・販売・下請の4事業で9,237千円（内部取引含む）の事業収入となった。4事業のうち前年比で下請事業のみ647千円の減収であったが、他の3事業については前年比で増収となった。

・障害福祉サービス等事業収入については、ここ数年高齢化もあり利用者数や利用日数が減り、ほぼ横ばいの28,213千円となった。

・大野市より物価高騰対策支援として年間200千円の給付があった。

支 出

・むつみ園同様に給食業務の委託内容に変更があり業務委託費支出は減少したが、業務委託費支出以外の科目はすべて前年比で増額の決算額となっており、物価高騰のあおりを受けている。

⑤共同生活援助（グループホーム）

(単位：千円)

(単位：人)

	R 5 年度	R 6 年度	延べ利用者数	R 5 年度	R 6 年度
収 入	35,949	40,116	G H	6,513	6,596
支 出	38,326	39,287			
積 立	0	0			

※R 6 年度 サービス区分間繰入金含めず

収 入

・令和6年度より定員19名の共同生活援助事業へと再編し障害福祉サービス等事業収入については増額となった。

・大野市より物価高騰対策支援として年間180千円の給付があった。

支 出

・全支出科目で前年比で増額の決算額となっており、物価高騰のあおりを受けている。

- ・法人本部会計へ100千円繰り入れた。

〈考 察〉

予算については、各部署からの事業計画・予算案に基づき精査後、理事会での審議を経て執行している。

社会福祉法の改正により、内部留保の額に制限ができ上限を超えた内部留保である社会福祉充実残額は既存事業の充実や新規事業などに再投下されることになり、安心安全な環境の整備を行い、利用者の方へのサービスの向上、業務の効率化・省力化につなげるとともに、法人として積極的に地域貢献事業を実施していく。

建物や設備等が老朽化している事業所もあり、不測の事態に陥る前に、施設整備を計画的に実施していく必要がある。

各事業で定員割れが常態化しており、法人全体で収入減少が顕著である。長引く物価上昇に増して、追い打ちをかけるように電気料金、原油価格の高騰が続いており、経営の圧迫に繋がっている。収入面の安定に向け、これまで以上に財務状況を正確に把握し、計画的且つ戦略的なアプローチで財務の健全化を図り、福祉人材の確保・施設機能の活用を促進していく。

【2】防災・防犯対策

利用者の安全・安心な生活を重要課題とし災害に備え、防災訓練、防災教育、研修等を実施すると共に、防災設備及び備蓄の点検・補充を行った。

《防災対策》

（1）防災訓練の実施状況

年に数回、想定を変えて避難訓練を実施し、訓練終了後には意見や感想を聴取し、災害時や次回の訓練に反映出来るよう職員間で情報共有を図っている。

実施事業所	項 目	実 施 日	内 容
大野荘	消火・避難・通報訓練	令和6年7月10日	夜間厨房より出火し、避難訓練を実施
	消火・避難・通報訓練	令和6年12月6日	平日の日中に地震発生し、厨房より出火にて避難訓練実施
むつみ園	消火・避難・通報訓練	令和6年6月25日	平日の日中に地震が発生し、その後厨房より出火にて避難訓練実施
	消火・避難・通報訓練	令和6年10月25日	平日の日中、洗濯室より火災発生し、むつみ園に自主避難を実施
GH たんぽぽ	災害時避難・通報訓練	令和6年6月17日	警報級の大雨を想定し、避難訓練実施
	消火・避難・通報訓練	令和6年10月17日	夜間、台所より火災発生し、避難訓練を実施

GH たんぽぽ	災害時避難・ 通報訓練	令和 7 年 3 月19日	日中地震発生し、家屋倒壊及び火災 の恐れにて避難訓練実施
GH かささぎ	消火・避難・ 通報訓練	令和 6 年10月23日	夜間、台所より火災発生し、避難訓 練を実施
	災害時避難・ 通報訓練	令和 7 年 3 月18日	日中地震発生し、家屋倒壊及び火災 の恐れにて避難訓練実施
GH ひまわり	消火・避難・ 通報訓練	令和 6 年 9 月19日	夜間、台所より火災発生し、避難訓 練を実施
	災害時避難・ 通報訓練	令和 7 年 3 月21日	日中地震発生し、家屋倒壊及び火災 の恐れにて避難訓練実施
GH うぐいす	消火・避難・ 通報訓練	令和 6 年 9 月23日	夜間、台所より火災発生し、避難訓 練を実施
	災害時避難・ 通報訓練	令和 7 年 3 月17日	日中地震発生し、家屋倒壊及び火災 の恐れにて避難訓練実施
よもやま	消火・避難・ 通報訓練	令和 6 年10月10日	食品加工室より火災発生し、避難訓 練実施
すてっぷ	消火・避難・ 通報訓練	令和 6 年10月23日	夜間、地震発生後、台所より出火し、 避難訓練を実施

(2) 防災設備等について

- ・各事業所で委託業者による消火器、スプリンクラー、誘導灯及び標識、防火戸、自動火災報知設備等の保守点検（年 2 回）を実施し、不良箇所は修理・交換等を行った。

(3) 備蓄物品の点検

- ・食糧及び物品備蓄の内容・在庫数・消費期限及び使用期限を点検し、交換や補充を行った。（大野荘・むつみ園）

(4) 研修について

- ・災害が起きた時の食事提供について、炊き出し訓練を令和 6 年11月15日に実施した。（職員 7 名の参加）
- ・防犯研修会を令和 7 年 1 月21日、大野福祉会体育館にて行った。（利用者15名、職員26名の参加）大野警察署生活安全課署員より、「特殊詐欺にあわない為の講義」を受けた。

(5) 福祉避難所について

- ・大野荘 …体育館にて簡易トイレと受付テントの設置を行った。
- ・むつみ園…あかね寮会議室にて福祉避難所を開設した。

【3】看 護 業 務

救護施設 大野荘

(1) 検査・検診の実施状況

項 目	月 日	実人数	実施機関名	内 容	結 果
春の内科検診 1 班	6 月12日	20	嘱託医	⑤⑥⑦	
春の内科検診往診 2・3 班 往診班以外	6 月19日 6 月28日	35 59	嘱託医	⑤⑥⑦	
生活習慣病検診	8月30日	97	予防医学協会	①～⑧	12名精査
インフルエンザ予防接種 1・2・3 班	11月13日、 20日	55	嘱託医	⑤⑥⑦	
インフルエンザ予防接種 班外	11月8日	60	嘱託医	⑤⑥⑦	

- ＊検査項目：①検尿②血液検査③心電図④胸部XP⑤血圧測定⑥問診⑦聴診⑧身長体重
- ・内科、精神科定期通院は1ヶ月に1回受診
 - ・内科嘱託医による内服者月1回往診、精神科嘱託医による対象者月1回往診
 - ・血圧測定、体重測定、血糖測定は月1回実施
 - ・新型コロナワクチン接種 令和6年11月8、13、20日実施。87名
(体調不良者、入院者、新規入所者は随時実施)
 - ・内服状況 ①内科薬70名 ②精神科薬89名 ③その他(脳・皮・眼・整など) 32名

(2) 施設内での保健衛生実施状況

月 日	実施項目	内 容
6 月 3 日	脱水症予防対策	入浴前後に水分補給開始～9月まで
8 月 1 日	全体保健指導	高齢者の熱中症対策について
6 月17日	害虫駆除	バルサン散布、アースノーマットの配布
10月21日	空調設備の清掃	通気口掃除大掃除、エアコン掃除
11月1日	全体保健指導	感染症対策、手洗い方法とマスク着用

(3) 年間入院状況

	県立病院	済生会病院	福仁会病院	たけとう病院	尾崎病院	勝山総合病院	その他	合 計
実 人 数	25	12	49	27	5	30	24	172
延べ日数	386	235	1,202	599	55	520	472	3,469

(4) 年間通院状況

	内科	外科・ 整形外科	精神科	歯科	皮膚科	眼科・ 耳鼻科	泌尿器科	その他	合計
実 人 数	155	67	530	40	43	45	17	61	958
延べ日数	200	78	582	71	53	50	18	71	1,123

※回診 実人数909名 延べ日数1286日は含まず。

(5) 年間処置数

	傷処置	不眠・不穏薬	軟膏	点眼	パウチ	下剤・坐薬	解熱・鎮痛剤	血糖測定	その他	合計
実人数	141	107	461	74	40	442	187	48	165	1,665
延べ日数	1,017	296	2,787	1,908	522	1,524	393	864	329	9,640

※パウチ交換の実数に自己管理者は含まず。

障害者支援施設 むつみ園

(1) 検査・検診の実施状況

項目	月 日	実人数	実施機関名	検査項目	結 果
春内科検診	6月12日	26	嘱託医	⑤⑥⑦	内服変更0名
生活習慣病健診 (歩行困難者対象)	5月13日～ 8月29日	9	嘱託医	①～⑦	精密検査2名
生活習慣病検診 (むつみ園)	8月30日	11	予防医学協会	①～⑧	精密検査2名
生活習慣病検診 (よもやま・GH)	8月30日	15	予防医学協会	①～⑧	精密検査0名

*検査項目：①検尿②血液検査③心電図④胸部XP⑤血圧測定⑥問診⑦聴診⑧身長体重

・内科、精神科は嘱託医による月1回の往診

・血圧測定、体重測定 月1回実施 ・血糖測定 月1回実施

・インフルエンザ予防注射は11月13日 むつみ園・GH実施（入院者は入院先で実施）

・内服状況 ①内科薬21名 ②精神科薬20名 ③その他（皮・整・耳）3名

・新型コロナワクチン予防接種は11月17日むつみ園・GH65歳以上の方が実施
(体調不良者、入院者は随時実施)

但し、むつみ園利用者に関しては2名のみ同意が得られず実施していない。

(2) 施設内での保健衛生実施状況

月 日	実施項目	内 容
6月16日	環境整備	アースノーマット配布
6月17日	熱中症予防対策	入浴前の水分補給開始
6月11日	全体保健指導	熱中症・歯磨きについて
11月12日	全体保健指導	冬の感染症予防と転倒予防について
通年	感染症予防対策	手洗い・手指消毒励行・施設内換気・消毒の発信 園内環境整備・必要時マスク着用の発信

※毎週木曜日（女子）金曜日（男子）は棟毎に個人用のコップ、水筒の消毒実施。

※害虫駆除・空調設備の清掃等は一斉作業で報告とする。

(3) 年間入院状況

病院名	みどりヶ丘	尾崎病院	県立病院	勝山総合病院	たけとう病院	福仁会病院	合 計
実人数	8	8	9	4	5	4	38
延べ日数	217	228	234	93	142	75	989

※病名 肺炎、統合失調症、イレウス、摂食嚥下障害、肝硬変、急性腎盂腎炎など

(4) 年間通院診療科

	内科	外科 整形	精神科	耳鼻 咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	脳外科	その他	合計
実人数	58	19	104	20	15	11	12	1	20	260
延べ日数	82	20	119	30	19	11	18	2	26	327

※内科・精神科の往診は含まず。

(5) 年間処置

	傷処置	軟膏 処置	点眼・ 点耳	摘便 下剤 坐薬	不穏時 不眠時	血糖 測定	解熱剤 感冒薬	湿布	その他	計
実人数	51	303	75	208	47	40	34	10	110	878
延べ人数	75	8,058	1,223	1,209	88	40	88	750	437	11,968

【4】給 食 業 務

救護施設 大野荘

外出制限が引き続きある中、利用者にとって楽しみの一つである食事への要望に応えられるように、給食関係者はほぼ毎日話し合い改善に努めた。食事の提供には日々の衛生管理を怠らず調理員の体調管理も気を抜かず、急な対応に応じるために業者との連携も欠かすことなく、利用者にとって安心して安全な食事提供に努めた。咀嚼・嚥下困難者が増えたことで見直しが多く、また、退院時の食事形態の変更も多かった。急な体調変化も応えられるよう、他職種との連携を欠かさずに直ぐに対応した。

1. 栄養摂取量（一人1日平均）

品 目	目標値	摂取量	比率	品 目	目標値	摂取量	比率
熱量kcal	1,650	1,779	108%	ビタミンA μ g	450	677	150%
蛋白質g	50	67.7	135%	ビタミンB1mg	0.9	2.67	297%
カルシウムmg	550	649	118%	ビタミンB2mg	0.9	1.08	120%
鉄分mg	6.0	10.9	182%	ビタミンCmg	80	99	124%
						食塩相当量	8.5g

2. 食糧構成（一人1日平均）

食品類別	目標値(g)	摂取量(g)	食品類別	目標値(g)	摂取量(g)
穀 類	245	281	野 菜 類	300	348
芋 類	70	77	果 実 類	50	64
魚 介 類	70	62	海 藻 類	7	10
肉 類	30	44	種 実 類	1	1
卵 類	30	25	油 脂 類	5	6
乳 類	230	224	調 味 料	25	34
豆 類	75	74			

3. 栄養指導

全体栄養指導（6・12月）

感染症予防の基本となる手洗いの大切さを伝えた。季節を問わなくなっている食中毒予防として嗜好品購入時の注意点と保管の仕方についても注意を促した。加齢に伴う誤嚥予防として、食べる時の正しい姿勢等注意点を話す。引き続き関心を持てるよう談話室にて資料を掲示した。

4. 事故、ひやりはっと報告

納入食品からの異物混入があったが、調理作業中に発見出来た。食事中に利用者の申し出による異物混入が2件あった。器具類破損からの破片混入が1件、退院時の情報共有不足からヒヤリ報告が1件発生した。厨房関係者が衛生管理を徹底することと、器具類の保管管理を怠らないことを徹底する。

5. 給食行事

季節を感じる食材を取り入れることは勿論、歳時にも特別感を感じられる献立を取り入れた。毎月の特別献立の日は、要望の多い献立を取り入れるようにした。

食事を楽しみの一つと捉える利用者の思いに答えられるよう利用者からの声を大切にした。意見箱から献立に関する希望要望があった時は出来る範囲内で取り入れ、困難と思われる内容については丁寧に説明した。

障害者支援施設 むつみ園

6月より完全調理済み食品での食事提供に変わった。利用者には回数を重ねて分かり易いように変更点をよく説明した。

変更になる際、利用者の食事形態がスムーズに移行出来るように、利用者、職員共に試食を行い、常食とムース食の献立の2本立てとした。刻み食は継続しているが、利用者の嚥下力低下など様々な要因で変更することが多く、個々の形態の見直しは他職種連携で速やかに行った。

利用者の食事への満足度を下げない為にも施設側も食材の一部を揃えて出来る限りの対応を行い、委託業者との話し合いを通して改善をお願いし、嗜好調査では概ね良好な意見が多かったが、今後も検食簿等からの意見を委託業者と改善に向けて話し合っていく。

月に数回は、「お楽しみメニュー」を取り入れることで、普段と違った変化のある献立を提供出来た。

1. 栄養摂取量（一人1日平均）

品 目	目標値	摂取量	比率	品 目	目標値	摂取量	比率
熱量kcal	1,670	1,640	98%	ビタミンA μ g	550	433	79%
蛋白質g	46	51.6	112%	ビタミンB1mg	0.97	0.8	82%
カルシウムmg	570	519	91%	ビタミンB2mg	1.1	0.8	73%
鉄分mg	6.0	7.0	117%	ビタミンCmg	80	63	79%
						食塩相当量	6.4g

2. 栄養指導

嗜好調査実施（2月）

変更後の調査であったが、概ね良い回答が多かった。

個別対応を求める意見があり、委託側と施設として出来る内容との調整を行い、より良い食事提供を目指したい。

Ⅱ 救護施設 大野荘

【1】事業の状況

定員を130名とし運営を行っているが、令和6年度の状況は入所10名、退所14名で年度末時点では121名であった。退所理由は地域移行が5名、介護保険施設への移行が4名、死亡による退所が5名であった。また、これとは別に、石川県能登半島地震により七尾更生園から避難受け入れをしていた2名が、6月に七尾更生園に戻った。

利用者の平均年齢が70歳を超え(女性に至っては73歳超)、精神疾患を抱える方も50%(重複含)を超えるなか高齢・重度化は顕著であり、それに伴い身体的介護に加え認知症の症状が進行した利用者が増大、介護施設に移行できた方は4名に留まっており、施設内の介護支援は益々困難をきたしている。

一方、地域移行された利用者は5名おり、男性4名、女性1名がそれぞれの地域でアパート生活をスタートさせた。

入所利用者への支援については、新型コロナウイルス感染症のクラスターの発生等もあり、日課・行事等制限される時期もあったが、日帰り旅行や個々の外出(時期により制限)等実施することができ、きめ細かな個別支援計画の作成を行い支援にあたっている。

一時入所事業は年間10名の方が利用し、借家の退去から次の住居が決まらない、生活に困窮し自立生活が難しい方等8名は入所となる。

地域移行に向けた居宅生活訓練事業については、年度当初は男性3名で開始するが、11月に1名が地域域移行した後は利用対象者がおらず、その後は2名となり継続して訓練を行った。

【2】利用者状況

①実施機関(単位:人)

(令和7年3月31日現在)

県内	福祉事務所or 健康福祉センター(C)	利用者数			県外	福祉事務所or 健康福祉センター(C)	利用者数		
		男	女	計			男	女	計
福井県	福井 C	2	3	5	岐阜県	美濃市	1	1	2
	丹南(鯖江) C	2	3	5		郡上市	0	1	1
	丹南(武生) C	5	0	5		揖斐	1	0	1
	二州 C	0	3	3					
	若狭 C	0	2	2	小計		2	2	4
	大野市	9	8	17	滋賀県	湖東地域	0	0	0
	勝山市	3	4	7		長浜市	1	1	2
	越前市	6	2	8	大阪府	枚方市	0	1	1
	福井市	24	5	29	石川県	七尾市	1	0	1
	坂井市	10	7	17	小計		2	2	4
	あわら市	1	0	1	県外合計		4	4	8
	鯖江市	2	1	3	総計		72	49	121
	敦賀市	4	4	8					
	小浜市	0	3	3					
小計		68	45	113					
県内合計		68	45	113					

②入退所状況（短期利用も含む）（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規利用者	男	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3
	女	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	7
退 所 者	男	0	3	0	1	0	0	1	2	0	0	0	1	8
	女	0	0	3	0	1	1	1	1	0	1	0	0	8
月末在所者数	男	77	75	74	74	50	74	73	72	73	73	73	72	
	女	50	51	50	50	50	50	51	49	49	49	49	49	
	計	127	126	124	124	124	124	124	121	122	122	122	121	

③年齢別性別状況（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

区分\歳	～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75以上	合計	平均年齢
男	0	0	3	6	3	6	16	22	16	72	68.1歳
女	0	0	1	0	1	8	4	11	24	49	73.7歳
計	0	0	4	6	4	14	20	33	40	121	70.4歳
%	0.0	0.0	3.3	5.0	3.3	11.6	16.5	27.3	33.1	100	

④在所期間状況（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

区分\年	1年未満	1～3	3～5	5～10	10～15	15～20	20～25	25年以上	合計	平均年数
男	2	9	9	19	15	12	0	6	72	11年7ヶ月
女	5	5	2	7	8	7	3	12	49	17年10ヶ月
小計	7	14	11	26	23	19	3	18	121	14年1ヶ月
%	5.8	11.6	9.1	21.5	19.0	15.7	2.5	14.8	100	

⑤障害の状況（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

障害の区分	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害				その他	合計
				身体知的	身体精神	知的精神	身体知的精神		
男	5	5	29	0	5	3	0	25	72
女	0	7	19	0	2	4	2	15	49
小計	5	12	48	0	7	7	2	40	121
%	4.0	9.9	39.7	0	5.8	5.8	1.7	33.1	100

⑥ADL状況（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

	全部介助	一部介助	自立	計
男	8	43	21	72
女	14	25	10	49
計	22	68	31	121
%	18.2	56.2	25.6	100

⑦入所状況

(令和7年3月31日現在)

No.	氏名	性別	入所日	実施機関	入所前
1	A	女	R6.5.1	若狭健康福祉センター	女性相談所
2	B	女	R6.6.1	越前市福祉事務所	在宅
3	C	女	R6.7.25	鯖江市福祉事務所	在宅
4	D	男	R6.8.1	丹南健康福祉センター（武生）	在宅
5	E	女	R6.8.1	大野市福祉事務所	在宅
6	F	女	R6.9.1	二州健康福祉センター	生活支援ハウス
7	G	女	R6.10.1	敦賀市福祉事務所	在宅
8	H	男	R6.11.1	坂井市福祉事務所	在宅
9	I	男	R6.12.1	丹南健康福祉センター（鯖江）	病院
10	J	女	R7.1.1	二州健康福祉センター	在宅

⑧退所状況

(令和7年3月31日現在)

No.	氏名	性別	退所日	実施機関	退所後
1	K	男	R6.5.1	福井市福祉事務所	地域移行
2	L	男	R6.5.1	大野市福祉事務所	介護施設
3	M	男	R6.5.31	越前市福祉事務所	地域移行
4	N	女	R6.6.30	湖東福祉事務所	死亡
5	O	男	R6.7.31	坂井市市福祉事務所	地域移行
6	P	女	R6.8.8	二州健康福祉センター	死亡
7	Q	女	R6.9.9	鯖江市福祉事務所	地域移行
8	R	男	R6.10.15	丹南健康福祉センター（武生）	介護施設
9	S	女	R6.10.31	福井市福祉事務所	介護施設
10	T	男	R6.11.4	福井健康福祉センター	死亡
11	U	男	R6.11.26	敦賀市福祉事務所	地域移行
12	V	女	R6.11.23	二州健康福祉センター	死亡
13	W	女	R7.1.6	福井市福祉事務所	介護施設
14	X	男	R7.3.7	坂井市福祉事務所	死亡

⑨面会状況

(令和7年3月31日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	1	5	6	2	3	2	4	8	5	1	0	3	40

⑩外泊状況

(令和7年3月31日現在)

外泊については5月に1件、支援を行い、実施された。

【3】個別支援計画

（1）個別支援計画の充実

「救護施設個別支援計画書」Ver.0の作成ガイドに基づいて個別支援計画を立て、支援の充実を図った。又、支援した内容については、ケース記録に必ず記載するように周知徹底した。

（2）ケア会議の充実

確実にケア会議を実施するため、月初めには会議予定表を配り、会議当日までに資料を作成するよう呼び掛けた。又、ケア会議には利用者本人の参加も促し、利用者が自らの生活課題や目標設定に直接的に関わり、職員と共に個別支援計画の確認を行った。

（3）モニタリング月のケア会議実施状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
予定		23	19	19	26	27		20	20	19	24	32	229
実施		23	19	19	23	25		18	18	14	19	24	202
%		100	100	100	88	93		90	90	74	79	75	88%

（4）ケア会議の時利用者参画状況

男子棟 かえで男子	女子 かえで女子	けやき	こぶし	合 計
7名	1名	0名	1名	9名

〈活動の状況〉

個別支援計画の作成では、ケア会議を遅滞なく行うことが出来ず予定通りできなかった。そのため、利用者参画も計画通り実施できていない。

個々の利用者支援のための個別支援計画であり、作成が義務化されたことと相まり各寮で係長を中心に責任を持ち計画的に実施する。

【4】班活動

（1）なごみ班

活動状況

〈今年度（利用者最大83人）〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	8	17	15	20	8	16	17	15	12	12	3	13
延人数	382	847	692	831	342	737	749	569	513	685	129	574

感染症による対応でなごみ班活動が中止となることや、入浴・通院等により職員が不足し、活動が実施出来ないこともあった。

軽運動（歩行訓練・自転車漕ぎなど）では、利用者の心身の状態に応じ残存能力の維持や機能回復に努めた。ホットパックを取り入れながら身体の血行促進や疼痛の緩和も図っ

た。また定期的に行うレクリエーション活動（ゲーム・ミュージックケア・カラオケ・おやつ会など）を通して、様々な障害を持った利用者に対し全員が参加出来るよう工夫しながら実施した。創作活動（塗り絵・ちぎり絵・折り紙など）では、利用者個々の能力に合わせた趣味性のある内容の充実を図り、季節に合わせた展示物の作成を行い、施設内で展示することで利用者に季節感を味わってもらった。また完成した作品の中から大野市の文化祭にも出展した。衛生面での支援やリラクゼーション（爪切り・耳かき・手足の保湿ケア・マッサージ）の提供も行った。

（２）こでまり班

活動状況

４月は利用者20名でスタートし、３月末には22名となる。中野化成の墨汁キャップの仕事については一時期品物が入らない事があったが、角皿、阿部産業・九頭竜ワークの作業については年間を通して十分な作業量を確保することができた。２月は新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し作業を中止したために、大幅に作業力が減ってしまった。

月別作業従事者延べ人数

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働日数	８	21	19	21	16	17	16	15	17	13	4	19
総 数	149	286	296	300	141	257	215	255	219	244	79	376

①作業収入

（単位：円）

月	阿部産業	中野化成	九頭竜ワーク	合計
４月	81,949	34,440	19,074	135,463
５月	75,329	41,760	21,318	138,407
６月	47,970	76,080	19,074	143,124
７月	103,361	47,520	23,562	174,443
８月	86,596	48,480	17,952	153,028
９月	76,698	47,932	20,196	144,826
10月	122,046	50,880	31,191	204,117
11月	122,915	55,612	22,440	200,967
12月	99,930	41,280	26,928	168,138
１月	84,721	39,334	24,235	148,290
２月	113,800	38,661	5,610	158,071
３月	33,648	54,068	20,614	108,330
合計	1,048,963	576,047	252,194	1,877,204

（３）のぞみ班

利用者16人。作業内容は中野化成からの作業として墨汁キャップを行った。

①作業収入

(単位：円)

月	墨汁キャップ	しんちゃん箸	合計
4月	10,560	0	10,560
5月	6,240	0	6,240
6月	5,616	0	5,616
7月	7,577	0	7,577
8月	960	0	960
9月	1,174	0	1,174
10月	4,023	5,166	9,189
11月	7,139	0	7,139
12月	7,680	4,920	12,600
1月	4,320	0	4,320
2月	2,400	0	2,400
3月	6,720	0	6,720
合計	64,409	10,086	74,495

※しんちゃん箸の販売先（イトコの里会館）

②月別作業従事者延べ人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働日数	7	21	8	12	8	6	13	13	14	12	4	16
総数	109	219	110	138	101	84	136	153	183	164	60	219

〈活動の状況〉

不良品を出さない為にも検査を丁寧に行った事により苦情はなかった。

(4) 内勤班

炊事班は男性1名女性1名がシフト制で作業を行ったが、男性の方の気分の落ち込みや調理員との関係などから、数回ミーティングを行い作業継続出来ている。女性の方も腰痛があり、休むこともあったが用心しながら作業を続けている。また、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染予防の為、数日作業に参加出来ない事があった。

洗濯班は女性利用者3名が所属しているが、今年度から作業に参加している方が作業日は一日作業するなど、意欲的に参加出来ている。1名の方は年齢的にも作業日数を徐々に減らしていきたいと担当職員の話もあるが、無理のない範囲で参加出来ている。他1名は休日に職員の手伝いを率先して行ってくれている。どちらの作業班も人員不足の状態、特に洗濯班は高齢化により後に続く人を探す事も難しい状況になっている。

(5) 外勤実習班

対象者は男性の利用者1名、本人や事業主（阿部産業）と日頃の出来事や不満（改善）など話し合う等継続して安定した実習が行えるよう配慮しながら、居宅生活訓練事業利用を経て11月に地域移行を果たした。しかし、それ以降は次の実習対象者の病気が発覚する

等から、外勤実習利用の方がいない状況となる。

【5】全体活動

（１）サークル活動

○編み物教室

日 付	5/22	6/18	8/25	9/6	10/11	12/6
参加者	2	2	2	2	1	2

講師指導のもと、職員１名が対応して実施した。

○絵手紙教室

日 付	5/29	6/26	7/24	9/11	10/23	11/6	12/18
参加者	3	2	1	4	3	4	5

職員１名が対応して実施した。

○お茶教室

日 付	5/28	6/28	7/29	8/26	9/17	10/25	11/11	12/17	3/19
参加者	24	23	26	26	25	30	24	28	37

講師指導のもと、職員２～３名が対応して実施した。

○生け花

春、年末、年度末に、生け花が好きな利用者数名が参加して花を生け、各棟や玄関などに飾った。

（２）よろず相談（利用者への何でも相談）

相談日時：毎週水曜日 午後１時30分～

相談受付者：係長

相談延べ人数 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	0	2	3	5	0	2	5	0	0	0	0	0	17
女	0	2	1	4	0	1	3	0	0	2	0	2	15
計	0	4	4	9	0	3	8	0	0	2	0	2	32

相談内容

(単位：件)

相 談 内 容	上半期	下半期	計
話を聴いて欲しい	16	11	27
回答がほしい	4	1	5

教えてほしい	4	3	7
調査してほしい	0	0	0
改めてほしい	1	1	2
相談内容カテゴリー	上半期	下半期	計
対人関係について（同室者・居室替え等）	5	4	9
意見・要望・苦情について	14	5	19
家族について（面会や連絡等）	1	1	2
作業・支援・行事について	0	2	2
金銭(小遣い)について	0	2	2
食事に関する事	1	1	2
地域・施設移行について(将来について)	0	1	1
健康・医療について	1	2	3
買い物について	0	0	0
計	22	18	40

（３）医療相談

相談内容は、食形態や通院に繋げて欲しいなどが多かった。

それぞれの状態を伺いながら、必要性に応じての通院に繋げ治療を開始した。

食事形態については、食事の状態や誤嚥予防などを考慮しながら、希望に添えるような対応をした。おやつ、煙草などの嗜好品の希望が多く、現病について説明し制限の必要性を職員と一緒に説明している。

今後も健康診断結果等を検証しながら、随時実施していきたい。

（４）栄養相談

食事形態の変更の相談に来られた利用者には、他職種と相談したが不可能な場合は、丁寧に説明して理解を求めた。また、体重増加目的で食事量の相談の時も、病歴や日常生活を重要視し相談は欠かせなかった。

体調不良の原因は食事の影響からと心配された利用者にも、多職種で連携を取り時間をかけて説明した。

希望献立、食事に対して大いに関心がある利用者からは、味付けの工夫や食材の使用回数についての意見があった。

（５）リハビリテーション

1人の利用者につき最低週1回（PM13:15～16:30）は利用者の機能回復・維持を目的として、PTによる訓練を行った。入浴日と被らないようなるべく男性利用者は火曜日と金曜日、女性利用者は月曜日と木曜日にリハビリを行うようにした。感染症に伴う対応やその他PTの都合により予定していた日時に実施出来なかったりリハビリについては、別日に変更しリハビリを行った。

- ①理学療法では、病院からのPTの個別処方を基に、主に高齢・重度の方達を対象とし、残存機能の維持増進を図った。

②作業療法では、病院からのOTの個別処方を取り入れ、精神の安定と意欲の向上を図った。

開催日及び参加者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	26	103	95	114	37	96	98	90	61	61	14	69
人数(P T)	23	95	88	105	34	88	90	83	56	58	13	60
人数(O T)	3	8	7	9	3	8	8	7	5	3	1	6

(6) 外出支援

マスクや消毒等基本的な感染対策はもとより、平日の午後にバス外出・図書館外出を行い、バス外出利用が困難な方は、各寮で個別に職員付き添いで外出支援を行う。

担当職員が利用者から聞き取りを行い、嗜好品等の買い物の代行にも対応した。

休日の外出時に、熱中症特別警戒アラートが出た場合は外出中止、熱中症警戒アラートが出た場合は農道散歩(30分以内)とした。

バス外出・図書館外出参加者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
バス外出	36	35	34	35	33	30	32	30	41	34	22	30
図書館	27	32	34	33	29	40	34	35	35	28	0	25
自転車	14	19	14	16	2	18	22	23	0	0	0	15

(7) 一斉作業

実施状況

新型コロナ感染症隔離対応や職員確保が困難な時もあり、定期的なワックスがけを行う事が出来なかったが、その他については計画通り実施する事が出来た。

(実施日及び実施内容)

実施日	内 容
5/24 (金)	食堂汚れ落とし
5/29 (水)	かえで寮女子廊下汚れ落とし
5/30 (木)	かえで寮洗濯場スロープ汚れ落とし
6/10 (月)	物品室前から洗濯室まで廊下汚れ落とし
6/17 (月)	害虫駆除 食堂前からスロープまでワックス掛け
7/12 (金)	事務所から食堂までの廊下の汚れ落とし
7/16 (火)	食堂汚れ落とし
7/19 (金)	男子上、女子上、けやき寮畳上げ大掃除・通風孔掃除
10/21 (月)	通風孔掃除
11/5 (火)～14 (木)	雪囲い

12/24（月）～26（水）	年末大掃除 28日は粗大ごみをゴミステーションへ
3月後半～末まで	雪囲い外し

（８）全体集会

毎月初めに体育館にて、誕生者の紹介、尾崎病院とたけとう病院の往診日の連絡、栄養指導日、特別献立日、月の予定を連絡し、看護師、栄養士から荘での生活の中で、気を付けて欲しい事等の連絡を行った。

【６】自治会（がんばろう会）

自治会活動は主に喫茶運営を週３回（月、木、土）実施した。10月には喫茶まつりを開催し、普段とは違うメニューと季節感ある雰囲気の中での喫茶レクリエーションを行った。カラオケ機器の寄付によりカラオケ活動も再開でき、カラオケ大会を開催したり、正月にはDVD鑑賞会も実施することが出来た。

【７】一時入所事業

受け入れ実績

利用状況（単位：人）

（令和７年３月31日現在）

新規利用者	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	男	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	4
	女	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	6
	計	2	1	1	2	1	0	0	1	2	0	0	0	10

	氏名	性別	期 間	実施機関	利用理由	利用後の行先
1	A	男性	4月17日～5月16日	あわら市福祉事務所	生活困難	老人ホーム
2	B	女性	4月26日～4月30日	若狭健康福祉センター	借家退去	入所
3	C	女性	5月7日～5月31日	越前市福祉事務所	借家退去	入所
4	D	女性	6月25日～7月24日	鯖江市福祉事務所	家族関係	入所
5	E	男性	7月29日～8月27日	丹南健康福祉センター	住宅老朽化	入所
6	F	女性	7月17日～7月31日	大野市福祉事務所	DV	入所
7	G	女性	8月21日～8月31日	丹南健康福祉センター	生活困難	入所
8	H	男性	11月21日～11月30日	丹南健康福祉センター	生活困難	入所
8	I	男性	12月20日～1月17日	福井市福祉事務所	入院まで	アパート
10	J	女性	12月10日～12月31日	二州健康福祉センター	住宅老朽化	入所

【８】居宅生活訓練事業

（１）利用者状況

①年齢構成（延べ人数）

区分	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	合計
男性	0	1	1	1	3

②障害の状況（延べ人数）

障害の区分	精神障害	身体障害	知的障害	障害なし	合計
男性	0	1	0	2	3

（２）専門員ミーティング

毎月１回専門員のミーティングを行い、利用者の状況や生活面での課題等について話合った。普段の様子など職員の目が行き届きにくい所の情報を専門員から報告してもらうことで、情報共有する事が出来るようにし、支援の向上に努めた。また生活面での不都合な点や不安な事など、利用者から声を上げてもらう事で、少しでも生活の質が向上するように努めた。

（３）経過

今年度も男性利用者３人が事業を利用した。令和６年１１月にＫ氏（６８歳）が福井市での単身生活に移行することができた。身元引受人がいない中で住居を探し、福祉との連絡と不動産業者との連絡調整、必要な経費について確認し、補助申請等を支援した。しかし、Ｋ氏の地域移行後は、事業を利用出来る利用者がおらず、２名での事業実施となった。

Ⅲ 障害者支援施設 むつみ園

【1】事業の状況

医療機関で長期治療中の方の死亡退所が1名、入退院を繰り返し長期治療が必要になり退所された方が1名、年度末現在27名の入所利用となっている。現在個室は満室になっており、自閉症や強度行動障害の方の受入れはすぐにできない状況である。

利用者の状況は、昭和35年の法人設立当初から施設利用されている方も含め、25年以上在籍されている利用者が多く、平均年齢が68.3歳と県内の障害関係施設の中でも超高齢化が進んでいる。障害支援区分は、区分5と6の利用者が7割以上を占め、車いすや歩行器を利用される方が7名、また21名の方がベッドを利用されている。いずれも身体的な介護の必要な方が多く、職員がマンツーマンで介護支援にあたる場面が多くなってきている。そのため生活介護サービスとしては、社会への自立が極めて困難な重度者への支援と身体機能が低下している高齢者への支援の両方が求められ、支援に当たっては利用者と信頼関係を結びながら施設内での身体機能保持と介護を中心とした個別支援メニューだけでなく、利用者の日課や情操教育等に取り組めるよう支援にあたってきた。

個別支援では、感染対策を行いながら少人数での買い物外出や外食・日帰り旅行などのほか、個別外出など一人ひとりの要望に沿った支援や園内で取り組める活動を提供した。また地域や保護者との交流を図るため、行事への参加やお楽しみ交流会を開催し親睦を深めた。

短期入所事業については、男子1名、女子1名、計2名の方が年間を通して利用している。その他に、緊急時に対応できるよう女子4名の方を受入れ自立した生活への支援と家族のレスパイトに応えられるよう体制を整えた。

日中一時支援事業については、奥越支援学校と連携しながら放課後の利用と長期休暇の利用を合わせて3名の方が利用を行った。

【2】利用者状況

①市町別利用者（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

出身市町		利用者数			出身市町		利用者数		
		男	女	計			男	女	計
県内 嶺北	福井市	4	2	6	県内 嶺南	敦賀市	0	1	1
	大野市	6	4	10		小浜市	1	0	1
	勝山市	2	0	2		おおい町	0	1	1
	鯖江市	2	0	2	県内合計		16	9	25
	越前市	1	1	2	岐阜県	郡上市	0	1	1
	永平寺町	1	0	1		七尾市	0	1	1
					県外合計		0	2	2
					総数		16	11	27

②年齢構成（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

区分	～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75以上	合計	平均年齢
男	1	1	0	1	3	1	2	3	4	16	64.4歳
女	0	0	0	0	1	2	1	2	5	11	73.9歳
計	1	1	0	1	4	3	3	5	9	27	68.3歳
%	3.7	3.7	0	3.7	14.8	11.1	11.1	18.5	33.4	100	

（備考）最年少34歳、最高齢87歳

③障害の状況（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

障害の区分	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害				その他	障害なし	合計
				身体知的	身体精神	知的精神	身体知的精神			
男	0	12	2	1	0	1	0	0	0	16
女	0	6	3	2	0	0	0	0	0	11
小計	0	18	5	3	0	1	0	0	0	27
%	0	66.7	18.5	11.1	0	3.7	0	0	0	100

④在籍年数（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

区分	1年未満	1～2	3～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25年以上	計	平均年数
男	0	1	1	3	1	5	0	5	16	20年7ヶ月
女	0	1	0	2	1	2	0	5	11	25年6ヶ月
計	0	2	1	5	2	7	0	10	27	22年7ヶ月
%	0.0	7.4	3.7	18.5	7.4	26	0	37	100	

（備考）最長在籍者（昭和52年4月入所）47年11ヶ月

【3】個別支援計画

（1）個別支援計画の徹底と充実

本人の希望・要望を踏まえ、その人らしくどう生きていくかという思いを支援するプランやケアの大切さを知り、生活行為や生活意欲を引き出すような支援計画の作成を継続して行った。個別支援計画の支援内容や日常における支援の変更について、昨年度より、その都度『対応表』を作成し回覧することで支援員全員が情報を共有できるようにし、継続している。

高齢化により介護を必要とする利用者も増えている。そのため、健康面に配慮した支援を取り入れたり、入院面会の支援も多くなった。また、利用者の楽しみでもある外出の機会もできるだけ増えるよう、感染防止対策を行った上で、個別外出を実施した。

個別懇談会は、対面・ZOOMでも実施できるよう案内を発送した。高齢・遠方のご家族もおられるが、昨年度より対面での懇談会が増えた。個別支援計画について、直接説明し、ご家族からの要望なども聞ける機会となっている。

個別懇談会の状況

(単位：件数)

個別懇談会	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保護者の出席 リモート含む	0	2	1	2	3	0	0	1	2	2	2	0
郵 送	4	5	5	2	1	3	5	5	3	3	2	3
計	4	7	6	4	4	3	5	6	5	5	4	3

成年後見制度利用者数	補助人	保佐人	後見人
計	1	0	1

(2) ケア会議の充実

サービス等利用計画との整合性が図れるよう、サービス管理責任者がケア会議の年間計画を立てて開催した。

急な業務の変更などでケア会議の開催が出来ず、後日、ケース担当者・各寮リーダー・(強度行動障害支援担当者) サービス管理責任者で開催することもあったが、各寮支援員の意見も反映されるよう、昨年と同じく出席できない支援員には意見を提出してもらった。

利用者は、体調不良や欠席の意思を示した方を除いてケア会議に出席してもらい、会議の中でも利用者自身が思いを自ら話せるようサポートしながら、また、会議中の本人を感じ様子を観察しながら個別支援計画の確認を行った。

【4】施設入所支援事業

入所利用者に対して、排泄・食事などの介護や生活に関する相談など、日常生活における居住支援を実施した。

定員30名のところ年度当初は 29名だったが、令和6年7月に男性(71歳)1名は食事提供等が困難な状態となり介護施設に移行、令和6年11月に女性(90歳)1名が死亡し、年度末には27名となった。

高齢化が著しく、特に夜間や職員数が少ない休日に転倒事故が増えている。新型コロナウイルス流行当時の行動制限による歩行頻度減少の影響からの機能低下も一因と思われ、散歩に出かける機会を増やしたり、環境を整え転倒防止に努めている。また、転倒の危険性などを考慮して個別にマットレスのみで対応している利用者やベッド下にマットレスや離床センサーを使用している利用者もいる。車いすや歩行器(シルバーカー)を使用する利用者も多く、車いす同士や他利用者と接触するなどの危険がないよう配慮が必要となっている。

行動障害の方への支援では、統一した支援及び本人にあった適切な支援の提供のため、強度行動障害支援ミーティングにて検討し、より利用者の特性にあった支援手順書を作成し支援した。支援手順書の見直しは、3ヵ月に1回、或いは必要に応じて支援ミーティングを開催し、精神状態等の変化にあわせ、利用者が落ち着いて過ごせるよう支援変更した。変更点については職員間で周知できるよう朝礼等で随時、説明した。

今年度、感染対策は継続するが更に行動制限も緩和され、スポーツ大会への参加、保護者同伴のバスドライブ・観光バスでの日帰り旅行・お楽しみ会も実施した。面会や外出等も高齢者や重度者に配慮し、感染対策を講じながら実施した。施設内の感染対策もかなり

緩和し、創作活動や自治会行事等は男女一緒に行っているが、感染リスクを考慮しミュージックケアやレクリエーション等の活動はほぼ男女で分けて行い、食事は寮ごとのグループに分けての実施を継続した。その結果、施設内で新型コロナに感染した利用者はなく、他の感染症も広がることはなかった。

【5】生活介護事業

（１）入浴の支援

同性介助を基本とし週３回実施した。

《男性》月水金 《女性》火木金

個々に応じて、部分介助や全介助で入浴した。耳栓の使用や、浴槽に浸かる時に椅子を使用するなど、それぞれの利用者に合った対応をした。また、身体状況や高齢であることから週３回の入浴が難しく、かつ十分な見守りが必要な利用者に関しては、心身の状況に応じた支援や介助が必要となっている。そのような利用者については、看護師と連携し体調や健康面に配慮して入浴を行った。安全で快適な入浴を目指して作成した入浴支援の一覧表も利用者の状態や事故対策により更新した。今年度も浴室での事故が数件あり、対応策を講じた。入浴時の職員の連携の在り方や介護技術面での課題が残った。

（２）食事の支援

食事介助は、年齢や障害を考慮した上で、個々に合った自助食器の使用、咀嚼・嚥下困難者に対しては荒・中・極の刻み食・ミキサー食を提供した。６月からは食事提供形態が変更となり、極刻みやミキサー食を提供していた方にはムース食を提供した。また、むせやすく誤嚥性肺炎の危険性がある利用者には止むを得ずトロミ剤を使用した。トロミ剤使用時には味が混ざらないよう配慮はもちろん、ダマにならないよう均一に混ぜるよう気をつけて提供した。

咀嚼不良・食塊形成不全・送り込み不良・嚥下反射遅延には食事の所要時間、量、形態、環境、本人の意向、支援方法を検討し、職員間での情報共有、支援の統一を図り、嚥下状況を見ながら支援した。食事形態の変更に伴い、利用者からの苦情（食事の量・味・食べられない食事への対応困難等）があり、個別対応や個別支援で少しでも希望に沿うよう対応している。栄養面での課題もあり、栄養士による栄養についての話や個別での栄養相談を実施している。必要に応じてイフスコと会議を持ち、利用者の希望や要望を伝え改善できるよう努めている。

（３）排泄の支援

排泄介助は、必ず見守りができ、危険時にすぐに対応できることを基本とし、出来る限りトイレで排泄ができるように支援している。ポータブルトイレ使用時の転倒事故が数件あり、事故防止のため居室の環境を整えた。

居室でポータブルトイレを使用する場合であっても、必ずカーテンを使用するなど、プライバシーへの配慮を怠ることなく、また、清潔で快適な環境であることも常に意識し介助にあたった。

	男	女	計
ポータブルトイレの使用者	1	4	5
夜間の紙オムツ・紙パンツ等の使用者	1	0	1
昼・夜紙オムツ・紙パンツ等の使用者	7	5	12
定時排泄誘導介助・声かけ介助者	4	2	6

*導尿カテーテル（尿パック）使用者 4名（男性2名、女性2名）

（４）口腔ケア

昼食後に歯磨き支援を実施した。利用者が自分で磨き難い箇所は職員が仕上げ磨きを行った。歯磨きが苦手な利用者には本人に合う歯磨き粉を使用したり、口腔スプレーの使用や、うがいで咽る方には口腔シートを用い衛生保持に努めた。また適時、看護師が歯石や歯茎の状態を確認したり、歯石チェッカーを用いて磨きにくい部分を利用者と確認した。必要時には歯科との連携を図った。

（５）日中活動

個別支援は、朝礼・体操の後、1人でも多く個別支援にあたるよう努めた。

日中活動は、それぞれの担当者が、計画的に準備・活動するようにした。

- ①歩行（散歩）…季節や天候に応じて、施設内外の歩行を行った。適時歩行を行っている利用者は、悪天候時は園内歩行を行った。
- ②外出支援…コロナウィルスやインフルエンザ等の感染状況をみながら、感染対策を徹底し、少人数での買い物外出やドライブ外出を事前に立案した計画に基づき実施した。また、個々のニーズに合わせ個別外出も実施した。
- ③理美容…男性は4名の理容師に来園して頂き毎月実施した。1名の利用者は自宅への外出時に馴染みの店を利用した。
女性には年6回、大野市の美容協会の美容師に来園して頂き実施した。2名の利用者は個別支援で定期的に市内の美容室を利用した。
- ④創作活動・生産活動…月2回以上を目安に、季節の壁飾りや塗り絵、書道などへの取り組みを支援した。その他、個別支援の時間を活用したり、希望がある方にはマット編みを支援した。活動を通して、市の文化祭・きらりアート展・アールブリュット展等への参加を支援した。
- ⑤レクリエーション…男女に分かれて、レクリエーションを行った。空き缶積みゲーム、ボーリング、魚釣り、輪投げなどの軽運動や、iPadを活用して脳トレや体操などを行った。
- ⑥ミュージックケア…月に1～2回、男女に分かれて実施した。音楽に合わせて体を無理なく動かしたり、鈴や鳴子など簡単に楽しめる楽器を使って楽曲の世界を味わった。また情緒の安定や集団活動への参加促進を図り、リラクゼーション効果を上げる音楽療法を行った。
- ⑦カラオケ…土曜日の午前中に、4つのグループに分け男女別で少人数で実施した。各自が好きな曲や歌いたい曲を選曲し楽しんでいる。歌う事が苦手な利用者は他利用者が歌っているのを聞いたりして過ごしている。感染対策としてマスクの着用と換気、消毒を徹底した。

○活動の実施状況

月	① 歩行	② 外出支援	③ 理美容	④ 創作活動	⑤ レクリエーション	⑥ ミュージックケア	⑦ カラオケ
4月	2.11.12.25.29日	8.9.10.11.12.17.19.22.24.25日 個別外出5日	8.15日	5.25日	30日	17.24日	6.20.27日
5月	8.14.15.21.23.29.30日	2.7.8.9.13.15.17.23.29日 個別外出1.22.23.31日	20日	1.15.23.29.30日	16日	9.22日	4.6.18.25日
6月	3.7.13.25日	3.5.6.10.11.12.13.14.17.18.19.24.27日	10.17日	11.12.17日	19日	13.24日	1.8.15.22日
7月		2.3.4.5.8.11.12.19.22.23.24.29.30日 個別外出19.23日	22日	10.11.24.25日	3.18日	4.29日	6.13.27日
8月		5.9.13.14.16.19.20.26.29日	5.19日	1.6.9.14.21.22日	8.27.29日	28日	3.10.17.24日
9月	26日	3.9.10.11.13.17.18.19.20.23日 個別外出11.30日	30日	10.26日	4日	3日	7.14.21.28日
10月	2.9.10.15.21日	2.4.7.9.10.17.22.23.28.29.30.31日 個別外出23日	7.21日	2.3.9.24.30日	3日	31日	5.12.19.26日
11月		6.7.8.11.13.18.19.21.25.28.29日	18日	6.7.14.21.29日		20日	2.9.16.23.30日
12月		5.6.9.10.12.18.19.23.24日	9.16日	4.5日	12日	7.11日	7.14.21.28日
1月		14.15.16.17.20.22.23.24.28.29.31日	27日	8.15.16.22.23日	29.30日	9日	4.11.18.25日
2月		6.7.12.14.18.19.20.27日	10.17日	12.20.26日		19日	1.8.15.22日
3月	25日	5.6.7.10.11.14.21.24.27.28日 個別外出1日	17日	12.13.24日	5.13日	27日	1.8.15.22.29日
合計	25回	139回	18回	45回	15回	17回	48回

【6】短期入所事業

利用状況（令和6年4月～令和7年3月）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用人数	2	5	3	5	4	4	4	5	3	4	3	6
利用日数	12	14	10	19	12	12	14	16	10	12	10	18

今年度の利用は男性1名、女性5名を受け入れた。利用状況としては、毎週定期的な利用により家庭を離れ自立した生活への支援、週末の利用による家族のレスパイト、家族の都合による突発的な利用にも応じた。友人と一緒にサービスを利用したい等、個々の状況や要望に応じ、体制を整えながら受入れを行ってきた。

施設入所の利用者の高齢化が著しく介護や支援の量が増大する中、強度行動障害など障害特性の多様な方や、てんかん発作など持病のある短期入所の利用者を受入れて支援していくことは（人的にも環境的にも）容易ではないが、今後も出来る限り地域の福祉ニーズに応えられるよう努めたい。

【7】日中一時支援事業

利用状況（令和6年4月～令和7年3月）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用人数	2	2	1	2	1	1	1	1	1	3	2	2
利用日数	14	19	19	13	3	15	18	18	16	19	16	9

放課後に奥越特別支援学校中学部の女子生徒1名、長期休暇中は、奥越特別支援学校中学部の男子生徒1名、2月から新規で男性の方1名が利用されるようになり、今年度は計3名の受入れを行った。中学部の男子生徒は特性から同性の職員がマンツーマンで対応するなど、利用者に合わせて支援員を配置した。

ご家族（地域）からのニーズはあり、支援員の配置が確保されれば今後も受け入れを行っていく。

【8】全体活動

（1）生活相談

意見を聴取する機会として①朝礼②寮ごとの活動時やミーティング時③自治会活動時における話し合い④その場で言えない利用者は希望に応じて個別に対応した。

また、必要に応じて施設長やサービス管理責任者による相談も実施した。

意見等の聴取は、利用者の意見等が個別支援計画や行事企画に反映できるよう心掛け、対応時に留意すべきことに則り行った。今年度は意見箱にあった「相談日を設けて欲しい」という内容を生活支援会議にて検討し、7年度から係長・課長の相談日(なんでも相談)を設けることになった。

（2）自治会活動（うぐいす会）

年度当初に総会を開催し、「自らの手で、より快適で潤いある生活の実現を目指す」を目的に自治会活動を支援した。

（自治会行事）

実施日	活動内容	正会員（利用者数）	準会員（職員数）
4月18日	むつみ園 自治会総会	会員23名	8
4月19日	よもやま 自治会総会	会員11名	5
5月14日	端午の節句	会員41名	17
7月9日	七夕	会員40名	20
9月17日	敬老会	会員39名	20

11月10日	希望外出（カラオケ）	むつみ園会員 2 名	1
11月18日	希望外出（8 番らーめん）	むつみ園会員 3 名	2
11月25日	希望外出（よもやま 梅林）	よもやま会員15名	5
11月25日	希望外出（江戸文）	むつみ園会員 4 名	3
11月27日	希望外出（ひろの）	むつみ園会員 4 名	3
11月29日	希望外出（8 番らーめん）	むつみ園会員 2 名	2
12月11日	希望外出（テイクアウト 三好野）	むつみ園会員 4 名	0
12月19日	希望外出（テイクアウト 三好野）	むつみ園会員 3 名	0
12月25日	地域企画と合同クリスマス会	会員39名	18
2 月 4 日	節分	会員39名	19
2 月27日	希望外出（テイクアウト 三好野）	むつみ園会員 3 名	0
3 月 4 日	ひなまつり	会員39名	17

※自治会喫茶時のおやつは自治会員の希望を取り入れ購入した。

1 月 1 日、2 日は、自治会よりおやつを提供した。

自治会集会 自治会役員会 施設管理者との懇談会

実施日	議題	正会員 (利用者数)	準会員 (職員数)
4 月30日 (役員会)	端午の節句について 喫茶のおやつについて	4	4
5 月14日 (集会)	5 月の予定 日帰り旅行について 意見箱の確認、意見について	21	6
6 月10日 (集会)	6 月の予定 七夕集会について 意見箱の確認、意見について	24	6
6 月24日 (役員会)	七夕集会について	4	4
7 月 9 日 (集会)	7 月の予定 奥越明成高校の実習生の紹介 意見箱の確認 自治会でやりたい事について	21	7
8 月 2 日 (集会)	8 月の予定 意見箱の確認 夏祭りについて	23	6
9 月 5 日 (集会)	9 月の予定 意見箱の確認 敬老会について 希望外出について	4	2
9 月 5 日 (役員会)	敬老会について 希望外出について	25	6

10月10日(集会)	10月の予定 意見箱の確認 希望外出について 施設長よりマイナンバーカード等 について	19	8
11月5日(役員会)	クリスマス会について	4	3
11月12日(集会)	11月の予定 意見箱の確認 その他	23	5
12月5日(集会)	12月の予定 意見箱の確認 マット編みについて その他	21	6
12月5日(役員会)	クリスマス会について	4	1
1月7日(懇談会)	施設長との懇談 施設への希望や、やりたい事	4	3
1月7日	1月の予定 意見箱の確認 アールブリュット展について 節分について	23	7
1月7日(役員会)	節分について	4	2
2月4日(集会)	2月の予定 ひなまつりについて 意見箱の確認	25	6
2月24日(役員会)	ひなまつりについて	4	2
3月4日(集会)	3月の予定 意見箱の確認 その他	25	4

(3) 外出支援

①自由外出支援

- ・個人で買い物や理美容を目的とした外出に出る方はおらず、職員付き添いでの外出を実施した。
- ・個別支援で農道など園周辺の散歩に出る方が数名（男性）おり、夏季は熱中症対策の為、クーリンググッズや飲み物を準備した。冬季は園内を歩行してもらった。
- ・精神的不調から外出のルールを守らずに外出してしまう利用者がいた。

②要支援外出

- ・個別支援計画に基づいた個別外出を実施した。
(映画鑑賞、ドライブ、喫茶、大相撲福井場所観戦、外食)
- ・毎月、各寮で買い物外出計画を立てて人数や利用者の体力等、考慮しながら外出を行った。買い物に行けない利用者には、欲しい物を聞き取り職員が買い物代行を実施した。冬季間、感染症が流行した時には買い物代行のみ実施した。
- ・3月、5名の車椅子利用者が大野荘体育館で開催された出張販売会に参加した。

(4) 一斉作業

①実施日及び実施内容

実施日	内 容
4/10(水)	外窓高圧洗浄機、居室エアコンフィルター洗浄、車いす点検
6/6(木)	居室掃除、トイレ仕切りカーテン洗濯、あかねトイレ掃除 園外側溝掃除
6/27(木)	居室、食堂、訓練棟エアコン吹き出し口掃除
9/12(木)	短期部屋掃除、浴室掃除
10/10(木)	エアコンフィルター洗浄、エアコン吹き出し口掃除 男子棟、女子棟洗面所ポリッシャー洗浄
11月中旬～12月	天候を見ながら雪囲い（一部よもやまに依頼）
12/2.9.16.18	大掃除（居室、トイレのカーテン洗濯、第二倉庫、短期部屋、各居室のエアコン吹き出し口、居室窓ふき、トイレ、スロープ床洗浄、訓練棟2階掃除等）
2/5(水)	支援員室、居室床掃除・本館、あかねトイレ掃除
3/10(月)	あかねトイレ、本館トイレ、あかね多目的室、園外大窓ガラス拭き
3/26(水)	粗大ごみ処分、トイレ掃除、居室掃除
3月中	※天候を見ながら雪囲い外し

業務委託作業（メンテナンス中村）

7/24(水)	管理棟・食堂ワックスがけ
9/4(水)	あかね浴室前廊下床はく離+ワックスがけ
12/4(水)	男子共用通路 床はく離ワックス、食堂ワックスがけ
2/17(水)	訓練棟ワックスがけ
3/12(水)	食堂床はく離+ワックスがけ

※毎月浴室掃除実施 ※洗面所、洗濯場掃除適時

※寝具干し及び布団乾燥機による寝具乾燥

※居室エアコン、扇風機掃除や年末大掃除については、適時行った。

※乾燥機ダクトフィルター掃除随時

※月に1回車椅子点検

Ⅳ 障害福祉サービス事業所 よもやま

【1】事業の状況

7月に長期入院をされていた方が1名利用を終了した。定員20名のところ15名の利用者でリサイクル事業、食品加工事業、販売事業、下請事業の4部門の作業活動を行い、それぞれの利用者の就労能力を考慮しながら、就労を通じて自立に向けた作業活動を行ってきた。

今年度はリサイクル事業や食品加工事業を中心に収益の増加を図った。イベント販売やセルフ協・スーパー等での委託販売の拡充を行ったほか、新製品の開発を行った。12月にはショッピングセンターVIOにて甘栗の実演販売を行った。リサイクル作業については、缶・ペットボトルを定期的に回収・処理することで、出荷量が増え収益の増加につながった。平均工賃は月額27,559円を配分することができた。

平成20年からはじめた事業であり、17年が経過した現在では半数以上の利用者が60歳代であり、作業能力の減退或いは年齢等が原因となって利用日数が減っている。今後も作業種目の変更や、収入効率の高い作業の検討を行い、安定した作業収益を求めていく。

【2】利用者状況

①出身市町（単位：人）（令和7年3月31日現在）

出身市町		男	女	合計
福井県	鯖江市	0	1	1
	坂井市	1	0	1
	福井市	4	1	5
	敦賀市	1	0	1
	大野市	4	0	4
	勝山市	0	2	2
	永平寺町	0	1	1
合 計		10	5	15

②年齢構成（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

	19歳以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70歳以上	合計	平均年齢
男	0	1	0	1	2	1	1	4	10	61.5
女	0	0	0	0	1	2	2	0	5	62.4
計	0	1	0	1	3	3	3	4	15	61.0
%	0	6.7	0	6.7	20	20	20	26.6	100	

③新規利用・利用終了状況（単位：人）（令和7年3月31日現在）

令和6年度	
新規利用	0
利用終了	1

④障害の状況（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

障害の区分	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害				その他 病弱者 生活障害	障害なし	合計
				身体 知的	身体 精神	知的 精神	身体 知的 精神			
男	0	5	2	0	0	3	0	0	0	10
女	0	2	2	0	0	1	0	0	0	5
小計	0	7	4	0	0	4	0	0	0	15
%	0	46.6	26.7	0	0	26.7	0	0	0	100

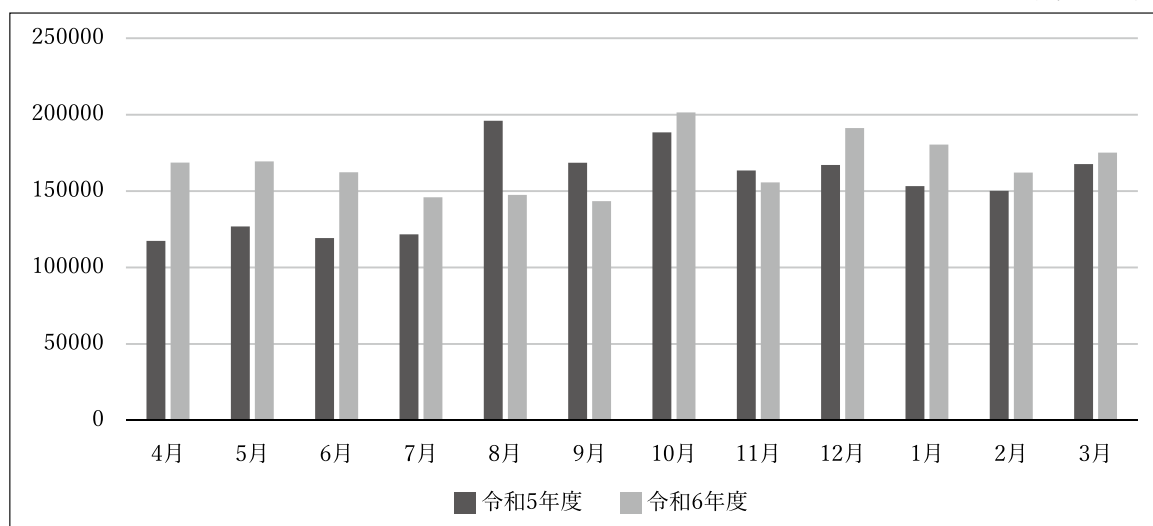
【3】就労継続支援B型事業

（1）リサイクル作業〔収益 2,002,580円、前年度対比 163,550円の増〕

今年度は、アルミ缶（現在単価180円）8,690kg、スチール缶（現在単価22円）9,940kg、ペットボトル（現在単価10円）27,422kgを回収した。

（リサイクル作業収益比較表）

（単位：円）



（2）食品加工〔収益 2,096,444円、前年度対比 316,277円の増〕

①ポン菓子〔収益 1,713,944円、前年度対比326,677円の増〕

福井県セルプ・かじ惣・杉本清味堂・結楽座・いとよの里・かどの商店への納品と委託販売を行っている。

②甘栗〔収益 255,000円、前年度対比 26,500円の減〕

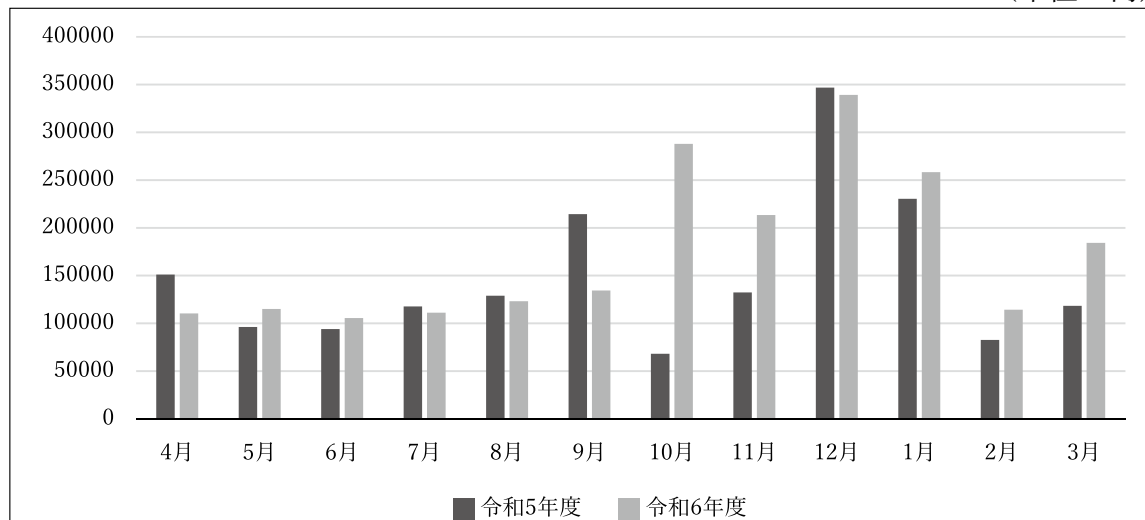
12月上旬より製造に取り掛かり、注文販売や年末にVIOにて実演販売を実施した。

③梅干〔収益 127,500円、前年度対比 16,100円の増〕

注文販売とイベント販売を行った。

(食品加工収益比較表)

(単位：円)



(3) 下請け [収益 1,658,631円、前年度対比 646,914円の減]

①プラスチック関係 [収益 1,172,506円、前年度対比 424,533円の減]

内訳：三興プラテック（お茶内職）

酒井プラスチック（バリ取りと検品）

中野化成（プラスチック組み立て、小皿のシール貼り・梱包）

本間金型製作所（お茶容器の袋詰め・プラスチック検品）

②ニチコン [収益 106,975円、前年度対比 100,494円の減]

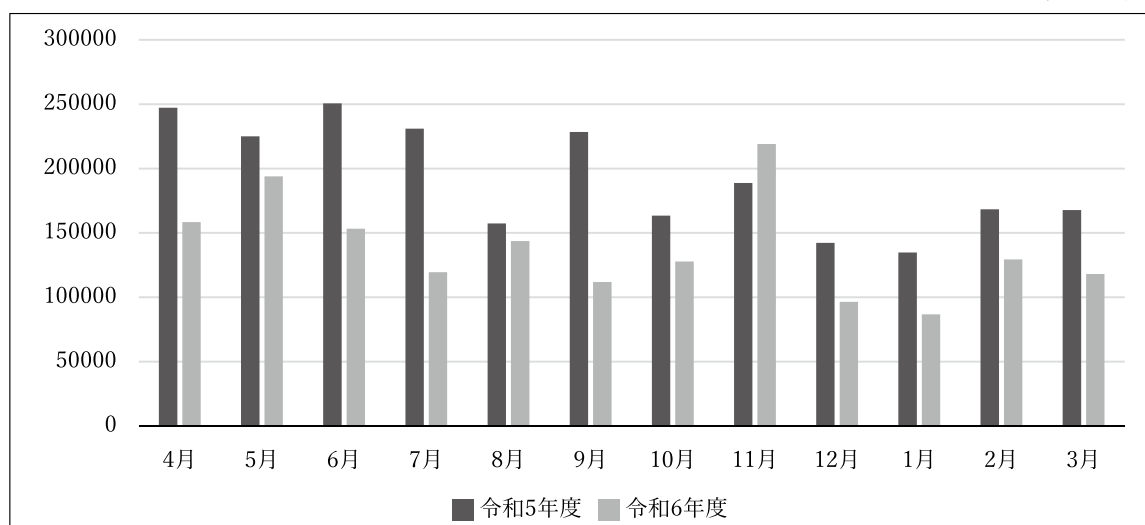
アルミ電解コンデンサ外観不良検査

③その他 [収益 379,150円、前年度対比 121,887円の減]

大野市福祉課からの依頼で公共機関の清掃活動、白布などのクリーニング
個人宅の除草、伐採作業や施設での除草、清掃活動。

(下請け収益比較表)

(単位：円)



(4) 販売 [収益 3,418,054円、前年度対比 98,711円の増]

①自動販売機 [売上 1,982,020円 前年度対比 24,103円の増]

両施設（大野荘・むつみ園）の自動販売機の補充と商品発注を行った。

②パン販売〔売上 469,394円、前年度対比 4248円の増〕

大野市役所 月2回（第2・第4木曜日）

大野福社会 月2～3回（第1・第3・第5木曜日）

販売員として利用者2名参加し、接客等を行っている。

③その他（果物、麺類、日本ハム販売等）〔売上 966,640円 前年度対比 70,360円の増〕

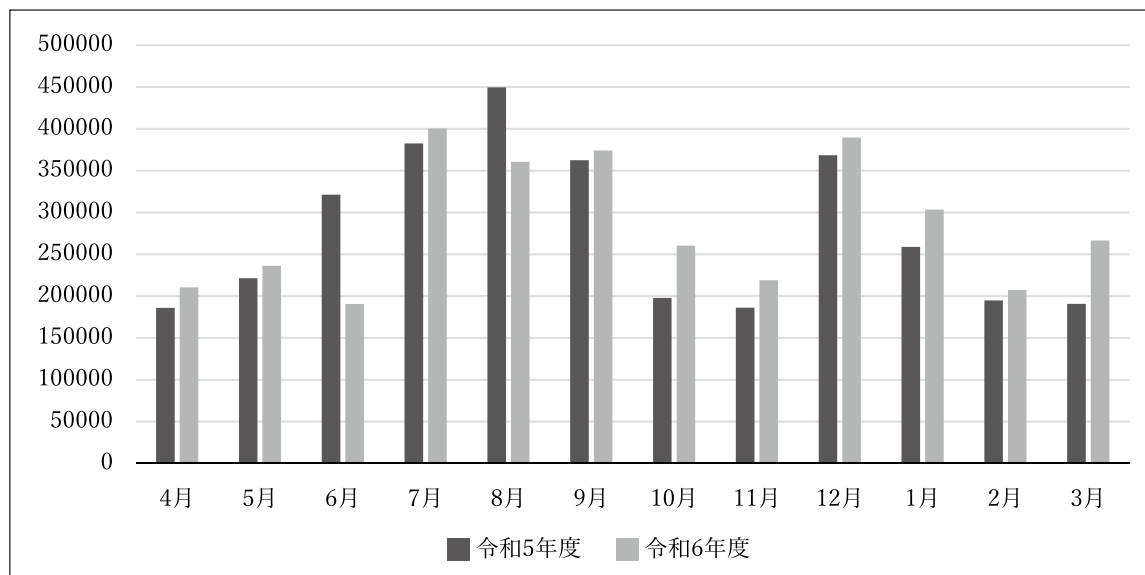
野村醤油のはまな味噌、内田製麺の生蕎麦や麺類、ピュアファームの果物、日本ハムの注文販売を行った。

④よもやまマルシェ

よもやまマルシェとしては開催しなかった。年末にVioにて甘栗の実演販売とよもやま製品の販売を行った。

（販売収益比較表）

（単位：円）



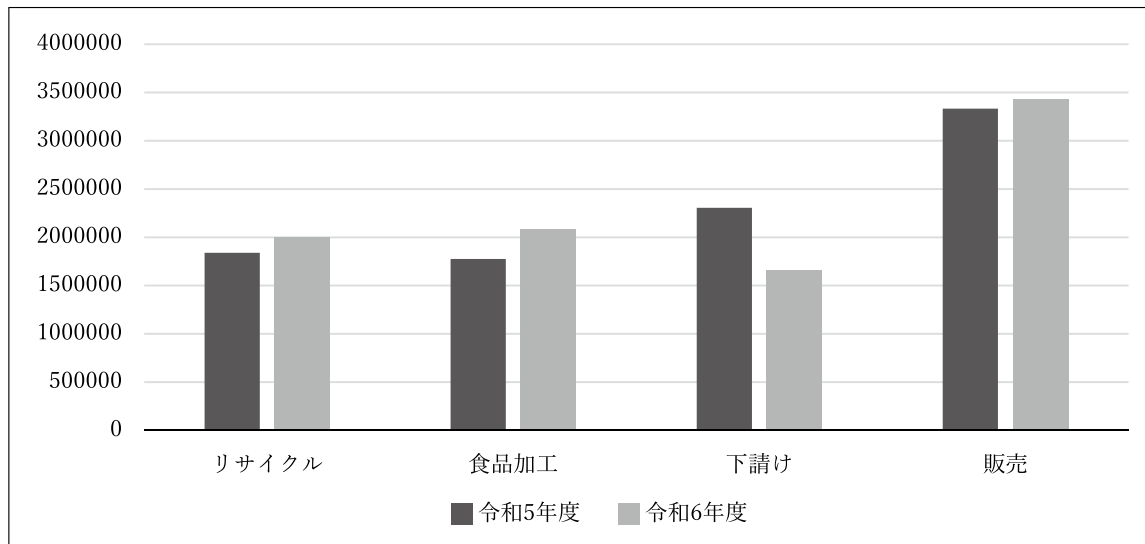
（5）参加イベント

4月	七間楽市	10月	七間楽市・小山まつり（委託） 全国知的障害者研究職員大会「福井大会」 奥越特別支援学校「おくえつ学校祭」 あけぼの園ベル販売会（委託）
5月		11月	七間楽市
6月		12月	年末販売会（甘栗実演）
7月	福井県セルフ県庁委託販売 福井県セルフ販売会大野市役所	1月	
8月	上庄夏祭り	2月	
9月	福井矯正展 楽市 福井県セルフ県庁委託販売	3月	七間楽市 福井県セルフ「MINIE 販売会」（委託） あけぼの園ベル販売会（委託）

DM販売（通年）

(6) 事業種別売上表

(単位：円)



(単位：円)

	令和 5 年度	令和 6 年度
リサイクル	1,839,030	2,002,580
食品加工	1,780,167	2,096,444
下請け	2,305,545	1,658,631
販 売	3,319,343	3,418,054
計	9,244,085	9,175,709

(7) 作業工賃年度別比較表

(単位：円)

	令和 5 年度	令和 6 年度
4 月	403,075	339,485
5 月	380,305	362,455
6 月	355,960	313,820
7 月	362,520	274,090
8 月	385,950	304,415
9 月	346,890	248,995
10月	333,750	324,040
11月	344,450	355,740
12月	342,440	359,120
1 月	356,740	353,360
2 月	359,340	327,560
3 月	370,790	339,330
計	4,342,210	3,902,410

(8) 作業工賃年度別比較表

(単位：円)

	総支払額	平均月額
令和5年度	4,342,210	28,492
令和6年度	3,902,410	27,559

【4】全体活動

- (1) 環境整備 溝掃除、除草は随時実施。作業室清掃は毎日行い、土曜日（月2回）は朝礼後に館内清掃を実施。害虫・ねずみ駆除を業者委託で実施（年2回）
- (2) レクリエーション活動 年間4回 DVD鑑賞を実施
- (3) その他 慰労会 年2回実施予定だったが、1回（3月11日）の実施となった。
自治会活動（11月25日希望外出「梅林」、季節毎に行事实施）
防災訓練 年1回実施（10月10日）
感染症対策訓練 6月ガウンテクニック・BCPの確認を行った。

V 共同生活援助事業（グループホーム）

【1】事業の状況

利用者様が年齢を重ねられ、さらに疾病の重度化と、生活支援を要する場面が増えている。通院時の送迎に受診時付き添い、部屋の掃除や私物の整理に洗濯、買い物などの外出支援と、利用者様個々に応じ支援の度合いに違いはあるが、お一人おひとりの地域生活を支える支援が増大している。

日中活動を休みがちな方が増えており、利用者様の意向を尊重しつつも心身の状況の変化を捉えながら日中活動の見直しを検討している。

また、高齢の方には、将来的な介護保険サービス事業所等へのスムーズな移行も視野に入れ、相談支援専門員と連携し、本人の思いを第一としながら、日中活動から介護保険サービス事業所を利用出来るようにと相談をしている。

【2】利用者状況

①出身市町別利用者（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

県内	出身市町	利用者数			県外	出身市町	利用者数		
		男	女	計			男	女	計
福井県	福井市	4	2	6	岐阜県	土岐市	0	1	1
	あわら市	0	1	1	県外合計		0	1	1
	坂井市	1	0	1	総計		9	9	18
	勝山市	0	3	3					
	大野市	2	0	2					
	鯖江市	0	1	1					
	敦賀市	1	0	1					
	永平寺町	0	1	1					
	若狭町	1	0	1					
県内合計		9	8	17					

②年齢構成（単位：人）

（令和7年3月31日現在）

区分\歳	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75以上	合計	平均年齢
男	1	1	1	1	1	0	4	9	65.8歳
女	0	2	1	1	2	0	3	9	66.8歳
計	1	3	2	2	3	0	7	18	66.3歳
%	5.6%	16.7%	11.1%	11.1%	16.7%	0%	38.9%	100.0%	

③障害の状況（単位：人）（令和7年3月31日現在）

障害の区分	知的障害のみ	精神障害のみ	重複障害	合計
			知的精神	
男	7	2	0	9
女	5	3	1	9
計	12	5	1	18
%	66.7%	27.8%	5.3%	99.7%

④日中活動サービスの利用状況

（令和7年3月31日現在）

ひまわり			かささぎ		
	年齢	日中活動先		年齢	日中活動先
い	48	就労継続B型(よもやま)	へ	54	就労継続B型(よもやま)
ろ	52	就労継続B型(よもやま)	と	60	就労継続B型(よもやま)
は	57	就労継続B型(よもやま)	ち	78	社会生活訓練実習(大野荘)
に	66	就労継続B型(よもやま)	り	80	生活介護(つぐみ福祉会)
ほ	75	就労継続B型(よもやま) 通所介護(さくらの家)			

たんぽぽ			うぐいす		
	年齢	日中活動先		年齢	日中活動先
ぬ	63	就労継続B型(よもやま)	か	55	障害者雇用(むつみ園)
る	75	就労継続B型(よもやま)	よ	64	就労継続B型(よもやま)
を	76	就労継続B型(よもやま)	た	67	就労継続B型(よもやま)
わ	80	就労継続B型(あすなろ) 通所介護(さくらの家)	れ	67	就労継続B型(よもやま)
			そ	76	障害者雇用(大野荘)

【3】世話人会の開催

毎月初めに世話人会を開催し、月毎の行事予定や連絡事項の伝達を行っている。

そのほか、感染症予防対策の周知徹底や、日頃の支援で悩んでいる事を共有し、それぞれのホームでの支援について意見交換する時間ともなっている。

また、「日頃の支援振り返りシート」を使用して、利用者様の尊厳を守る支援についての意識を高め、令和5年10月からは法人で導入されたスペシャルラーニングを活用し、毎回テーマを決め動画を視聴し意見交換を行い、虐待防止や人権擁護、障害者支援における情勢についての周知を行っている。

【4】地域との交流

今年度より、町内会の総会や行事、公園の掃除といった社会奉仕に利用者様と共に参加している。総会に参加する事で、グループホームの事業についてやどのような方が利用されているかを知ってもらう機会となっている。

来年度より、地域連携推進会議の開催が義務化される。今後も、グループホームについての広報、運営の透明化を図り、地域に根差したグループホームとなれるよう地域との交流、連携を深めて行きたい。

Ⅵ 相談支援事業

【1】指定特定相談支援・指定障害児相談支援

・計画相談支援

市町からの支給決定内容に基づき、サービス等利用計画（障害児支援利用計画）の作成およびモニタリングを対応した。また、サービスの変更・調整を伴うときには、適宜、臨時のモニタリングやサービス担当者会議を開催して対応した。

令和6年度の特定相談での新規契約件数は0件、障害児相談での新規契約件数は0件だった。一方で、令和6年度の特定相談での終了件数は8件、障害児相談での終了件数は0件だった。内訳としては、「事業所変更」1件、「事業所変更希望」が1件、「介護保険への移行」が3件、「医療への移行」が1件、「サービス利用の終了」が1件、「死亡」が1件だった。

・基本相談支援

ご本人・ご家族からの相談内容に応じながら、福祉サービスに限らず生活情報や社会資源に関する情報提供を行った。

・令和6年度 件数報告

〈上半期〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
契約件数（※月末時点）	75 (7)	75 (7)	74 (7)	72 (7)	71 (7)	71 (7)
新規件数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
終了件数	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)
モニタリング件数	18 (0)	10 (0)	18 (1)	21 (1)	8 (2)	9 (2)
計画案作成件数	2 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (1)	0 (1)	3 (2)
本計画作成件数	5 (2)	2 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	0 (0)
加算対象件数	0 (0)	4 (0)	2 (1)	5 (2)	4 (2)	3 (0)

〈下半期〉

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約件数（※月末時点）	70 (7)	69 (7)	69 (7)	69 (7)	67 (7)	67 (7)
新規件数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
終了件数	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)
モニタリング件数	15 (1)	11 (0)	16 (1)	19 (1)	9 (1)	8 (1)
計画案作成件数	4 (1)	1 (0)	4 (1)	5 (1)	3 (1)	2 (1)
本計画作成件数	3 (1)	4 (1)	1 (0)	4 (1)	5 (1)	3 (1)
加算対象件数	0 (0)	3 (2)	4 (1)	1 (0)	3 (1)	5 (0)

〈令和6年度 総件数（前年度比）〉

モニタリング：162 (11) 【－ 35】	本計画作成：34 (7) 【－ 21】	加算申請：35 (9) 【＋ 29】
------------------------	---------------------	--------------------

※（ ）の数値は障害児の内訳

【2】指定一般相談支援

・地域移行支援

令和6年度の地域移行支援の実績および新規契約件数は0件だった。

・地域定着支援

令和6年度の地域定着支援の実績および新規契約件数は0件だった。

【3】生活困窮者自立相談支援事業

【令和6年度の実施状況】

自立相談支援については、大野市自立相談支援センター「ふらっと」において常勤1名の相談員を配置し支援を行ってきた。

令和6年度は49件の新規相談を受け付けた。主な相談内容は「収入・生活費」「債務」「失業・休職」に関するものであったが背景にひきこもりが関係している相談が増加傾向であった。その他、プランは9件作成し、自立に向けて家計相談や就労支援を実施した。また、任意事業だけでなく、貸付やふく福くらしサポート、食糧支援等を利用し、必要と判断した場合には生活保護など他の制度につないだ。

1. 自立相談支援事業

相談件数 令和6年度：49件 令和5年度：47件

	令和5年度		令和6年度	
性別	人数	比率	人数	比率
男性	21	44.7%	24	49%
女性	25	53.2%	25	51%
不明	1	2%	0	0%

	令和5年度		令和6年度	
世帯	人数	比率	人数	比率
単身	20	43%	22	44%
複数	23	49%	27	54%
不明	4	9%	1	2%

		令和5年度		令和6年度	
相談経路		人数	比率	人数	比率
本人	来所	7	15%	11	22%
	電話	5	11%	5	10%
家族知人	来所	1	2%	3	6%
	電話	3	6%	2	4%
関係機関		20	43%	21	43%
その他		11	23%	7	15%

	令和5年度		令和6年度	
年代	人数	比率	人数	比率
10歳代	0	0%	2	4%
20歳代	2	4%	0	0%
30歳代	4	9%	10	20%
40歳代	5	11%	12	24%
50歳代	11	23%	6	13%
60～64歳	4	9%	6	12%
65歳以上	17	36%	9	19%
不明	4	9%	4	8%

相談内容	R 5	R 6
失業・求職について	8	35
収入・生活費について	18	43
債務について	6	23
家族・本人の健康・病気・障害について（医療費が高い等）	11	26
住まい・家賃について	5	14
家族関係・人間関係について	10	17
家族・本人のひきこもり・不登校について	5	11
子育て・介護について	0	0
その他	12	32

2. 住居確保給付金・家計改善支援事業・就労準備支援事業

- 1) 住居確保給付金 利用実績 0 名
- 2) 家計改善支援事業 利用実績 0 名
- 3) 就労準備支援事業 利用実績 0 名

【考察】

新規相談は昨年度と変わらない件数を受け付けた。6年度の特色として40代の相談件数が顕著であった。主な内訳は就職氷河期世代の相談で、繰り返す転職による収入減や無収入は珍しくない。そのため固定費の支払いが困難となりお金の相談に至る。主な要因は適した職業に巡り合わないだけでなく、ひきこもり経験や対人関係形成を不得意とする傾向がみられた。同居家族の有無に関わらず当事者のパーソナリティが一因となり家庭内の話し合いを飛び越えた相談も少なくなかった。

昨年は地域ケア会議にてケアマネジャーを対象に8060の問題に伴う役割説明をした。また、つながる会議を発足し活動内容を報告して事業のアピールを図った。

断らない相談支援とは制度の狭間に陥らないよう相談を受け止める第2のセーフティネットであることを再度認識し本制度で支援できるか他の支援につなげるかを考えていく。活動内容を詳らかにすることにより地域や他機関への周知ができた。

生活困窮者自立支援制度は相談業務が唯一の支援内容である。課題解決に向けて他機関連携は重要であり横串を強化したい。

Ⅶ 地域公益事業

【1】事業の状況

県内の法人連携による、ふく福サポート事業及び法人独自の緊急一時宿泊事業を社会貢献事業として位置づけ、様々な問題を抱えた方々の自立を支援し、生活困窮に陥らないよう一体的な支援を実施している。

法人連携による生活困難者の総合相談・生活支援事業（ふく福サポート事業）については、延べ13件の相談があり、食料や水道光熱費など現物給付は13件、延べ174,036円と、市社協の福祉資金貸付事業縮小もあり利用は増加傾向にある。

また、法人独自の事業として行っている緊急一時宿泊事業については、令和6年度は4件（男性2名、女性2名）の受入があり、当法人の地域貢献事業として今後も継続して事業展開を行うこととする。

【2】生活困難者総合相談・生活支援事業

令和6年度実績

(件)

	新規相談	継続相談	現物給付	返還金対応
4月	1		1	
5月		1	1	
6月	1		1	
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月	1	1	2	
1月	4	1	6	2
2月		1	1	
3月		1	1	
計	7	5	13	2

今年度も法人連携事業である、ふく福サポート事業に取り組んだ。相談から現物給付に至るまでの過程において、緊急性が高い事案が多く、あまり時間を掛けられない現状の中で、困窮の度合いや支援の必要性を見極めるのは非常に判断が難しかった。支援後、生活保護になった方や、就労先を見つけ自立した生活を送っている方など様々なケースがあるが、支援をする事で相談者と関係機関とのつながりを築き、少しでも生活環境が改善されるように努めていきたい。

【3】緊急一時宿泊事業

受け入れ実績

	氏名	性別	利用期間	利用理由	利用後
1	A	女性	7月4日～7月10日	DVのため	一時入所を経て入所
2	B	男性	12月7日～12月20日	安否確認、生活困難	自宅
3	C	女性	12月7日～12月20日	安否確認、生活困難	自宅
4	D	男性	3月28日～4月4日	電気停止	自宅

＜利用状況＞

令和6年度は4件の利用があった。BさんCさんは親子での利用となる。

VIII 地域支援課

職 員 研 修

【1】派遣研修実績

大野荘

実施月	研修会名	主催者（場所）	参加職種	人数	研修内容
4 月	ひきこもり支援関係 機関職員研修会	福井県 (オンライン研修)	専門員	1	ひきこもりの基本的理解
5 月	令和 6 年度接遇研修 (中堅者)	福井県（福井市）	支援員	1	接遇の基本的な考え方や自己表現の仕方、電話対応について学ぶ
	ひきこもり支援関係 機関職員研修会	福井県 (オンライン研修)	専門員	1	家族への相談対応方法 回復への道筋の示し方
	令和 6 年度奥越地区 生活保護受給者等就 労自立促進事業協会	福井県（大野市）	相談員	1	生活保護受給者等就労 自立促進事業について
	ひきこもり支援関係 機関職員研修会	福井県 (オンライン研修)	専門員	1	家族への相談対応方法 家族の具体的な関り方の示し方
	福井県社会福祉法人 経営青年会	福井県（福井市）	課長	1	令和 6 年度総会
	福祉施設の人材定着 に向けたポイントに ついて	福井県（福井市）	理事長 課長	2	福井県社会福祉法人経営者協議 会総会と研修会
6 月	高齢者・障害者虐待 防止研修	福井県（福井市）	支援員	2	高齢者・障がい者虐待の理解、 利用者の尊重と権利擁護
	令和 6 年度福井県相 談支援従事者現任研 修	福井県 (オンライン研修) (敦賀市)(鯖江市) (越前市)	相談支援員	1	6 月講義 7～9 月は演習を 3 回に分けて 相談支援に関する講義および研 修
	令和 6 年度ボラン ティアコーディネー ター資質向上研修	福井県 (オンライン研修)	支援員	1	ボランティアコーディネーション やマネジメントのポイントを学 ぶ
	大野地区社会福祉協 議会障害者部会ボラ ンティア研修	福井県（越前市）	施設長	1	肢体不自由協会会員の日帰り旅 行のボランティア
	令和 6 年度社会保険 事務講習会	福井県（大野市）	係長	1	社会保険、雇用保険の事務手続 き等について
7 月	ひきこもり地域支援 センター職員等への 人材養成研修（初任 者研修）	前期（オンライン 研修） 後記（東京都）	相談員	1	前期：講義（研修の目的とひき こもり支援の概要他）事例紹介 後期：グループワーク（事例研 究、情報交換会）
	福井県社会福祉法人 経営青年会	福井県（小浜市）	課長	1	友愛会が運営する施設見学およ び外国人実習生との意見交換等
	令和 6 年度(第53回) 北陸中部地区救護施 設研究協議大会	長野県（長野市）	施設長係長 支援員	4	地域連携と救護施設の役割
	主任相談支援員初任 者研修	神奈川県 (三浦郡葉山町)	相談員	1	生活困窮者自立支援制度につい て他（講義・演習）
8 月	令和 6 年度社会福祉 法人トップセミナー	福井県（福井市）	施設長	1	基調講演と課題提起・意見交換

9 月	社会福祉法人経営セミナー	福井県 (オンライン研修)	施設長	2	法人組織運営～指導監査実施要綱に基づく組織運営～
9 月 ～12 月	福井県相談支援従事者初任者研修	福井県 (オンライン研修) (上志比)(越前市) (福井市)	相談支援員	1	6 月講義 9～12月は演習を 3 回に分けて 相談支援に関する講義および研修
9 月	社会福祉法人施設経営セミナー	福井県 (福井市)	課長	1	災害発生時に、サービス提供を継続するために必要となるBCPの理解を研修・訓練の企画から改善について。またBCPの運用、管理の体制づくりを学ぶ
10 月	全国救護施設研究協議大会	全国救護施設協議会 (北海道札幌市)	係長	1	地域共存社会に向け、セーフティネットとしての救護施設機能を広げよう
	生活困窮者自立支援制度、支援ツールセミナー	厚生労働省社会・運営局地域福祉生活困窮者自立支援室 (オンライン研修)	相談員	1	支援ツールの意義と使い方を知る
11 月	社会福祉法人セミナー	福井県 (福井市)	施設長	2	虐待・権利侵害根絶に向けて社会福祉法人経営者に求められる視点
	ひきこもり・不登校学習会	福井県 (福井市)	相談員	1	講演「ひきこもり」の心と向き合う回復への道
	福井県相談支援従事者初任者研修	福井県 (大野市)	支援員	1	奥越地区障害者自立支援協議会相談部会
	社会福祉法人施設経営セミナー	福井県 (鯖江市)	施設長課長	2	新任役員・管理者に最低必要な知識と計算関係の見方
11～ 2 月	生活困窮者自立支援制度人材養成研修	宮城県 (オンライン研修)	相談員	1	孤独・孤立の理解とアウトリーチ相談支援 若年層が抱える課題とその支援
12 月	危険物安全協会研修会	福井県 (大野市)	支援員	1	危険物施設の安全管理 応急手当実技訓練 (救急講習会)
	ひきこもり支援関係機関職員研修会	福井県 (オンライン研修)	相談員	1	アウトリーチの実際・当事者の思い
	全国社会福祉法人経営青年会令和 6 年度東海北陸ブロック定例勉強会	福井県 (福井市)	課長	1	全国の全国社会福祉法人経営者・役員会 (50歳未満) を対象とした中央情勢報告、情報共有等の勉強会
	令和 6 年度救護施設福祉サービス研修会	東京都 (千代田区)	係長	2	救護施設における個別支援計画の制度化を踏まえ、理念や作成のプロセス、作成者の助言方法を学び。個別支援の質や専門性の向上を目指す
1 月	全国厚生事業団体連絡協議会研究会議	東京都 (千代田区)	係長	1	行政説明、基調報告、シンポジウム、分科会
	北陸中部地区救護施設連絡協議会役員会	新潟県 (新潟市)	施設長	1	令和 6 年度協議会・研究協議大会の収支決算の承認について 令和 7 年度協議会・研究協議大会の収支予算 (案) について 令和 7 年度研究協議大会日程 (案)、役割分担について
2 月	3 団体合同研修会	福井県 (福井市)	支援員	3	障がい者や障がい児の性のあり方や性教育の重要性について学ぶ

むつみ園

実施月	研修会名	主催者（場所）	参加職種	人数	研修内容
6月	令和6年度福祉職員専門課題別研修	福井県社会福祉センター 4階研修室	支援員 看護師	2	高齢者・障がい者虐待防止研修（6月コース）
	北陸地区知的障害者福祉協会施設長会議	ホテルグローバルビュー新潟	施設長	1	北陸地区知的障害者福祉協会総会及び研修会
	北陸地区知的障害者福祉協会施設長会議	富山県富山市 オークスカナル パークホテル富山	施設長	1	総会・中央情勢報告・施設種別部会
	令和6年度食品衛生講習会	多田記念大野有終会館	支援員	1	食品衛生上の危害の発生防止および食品衛生に関する、新たな見地の習得を目的として開催する。
8月	全国知的障害関係施設長等会議	むつみ園面会室（ZooM）	施設長	1	これからの障害福祉に求められること ー令和6年度報酬改定後の課題と展望ー
	福井県知的障害児者生活サポート協会実務担当者会議	福井県社会福祉センター	事務員	1	新プランの説明他
	第1回 ミュージック・ケア研修会	福井県社会福祉センター	支援員	1	日本ミュージック・ケア協会理事長の宮本氏による講義と実技指導
9月	第1回 社会福祉法人施設経営セミナー	福井県社会福祉協議会	施設長	2	法人組織運営ー指導監査実施要綱に基づく組織運営ー
	令和6年度 強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	福井県生活学習館	支援員	1	令和6年度福井県行動障害支援者養成研修（実践研修）の基づいた講義及び演習
10月	全国知的障害福祉関係職員研修大会福井大会	フェニックスプラザ・グランユアーズ福井他	施設長 管理者 係長 支援員	1 1 2 2	ウェルビーイングに着目し様々な観点から考え、語り合い、深めていく
	第3回 社会福祉法人施設経営セミナー	福井県立図書館	常務理事 施設長	1 1	新処遇改善加算取得のための賃金体系
	令和6年度大野市自衛消防クラブ研修会	大野市消防本部	看護師	1	火災発生時の初期対応及びシュミレーション訓練
	北陸地区知的障害者福祉協会 障害者支援施設部会施設長会議	新潟県長岡市 アオーレ長岡市民協同センター	施設長	1	令和6年度障害福祉サービス報酬改定後の課題や成果等経過報告
	令和6年度福井県知的障害者福祉協会虐待防止・権利擁護委員会研修	足羽福祉会 足羽更生園	支援員	1	虐待防止・権利擁護の取組みを学ぶ
	令和6年度 第2回 ミュージック・ケア研修会	福井県国際交流会館	支援員	1	日本ミュージック・ケア協会認定指導者「吉田茂樹事務局長」をお招きしての講義とセッション、実技指導

11月	社会福祉法人 セミナー	県経営協	施設長	2	虐待・権利侵害根絶に向けて社 会福祉法人経営者に求められる 視点
	虐待防止・権利擁護 委員会研修会	県知的障害者福祉 協会	支援員	1	施設見学と虐待防止の取り組み について
12月	令和6年度栄養管理 推進研修（高齢者の 栄養）について	むつみ園内 (Microsoft Teams)	栄養士	1	「奥越地域食形態共有一覧表」 の内容を更新の情報に改訂し、 他職間での活用方法を検討する
	令和6年度 福祉サービス苦情解 決機能強化セミナー	福井産業会館	管理者 課長	1 2	苦情対応に求められる事業所と しての姿勢やあり方、その適切 な対応等に関する知識や技術を 深め、苦情解決機能の向上を図 る。
	令和6年度 福井県サービス管理 責任者および児童発 達支援管理者（実践 研修）	きらめきみなと館	係長	1	講義、演習
	令和6年度 第2回 発達障害・教育部会	結とぴあ	係長	1	シンポジウム「子供の『移行支 援』の現状を考える」
2月	障害者虐待防止 マネージャー研修	録画配信参加	サービス管 理責任者	1	障害者虐待防止推進に努める研 修会
	令和6年度福井県強 度行動障害支援者養 成研修（フォロー アップ研修）	福井県社会福祉 センター	係長	1	講義とグループワーク
	令和6年度三団体合 同研修	福井県社会福祉協 議会	支援員	3	障がい者や障がい児の性のあり 方や性教育の重要性について学 ぶ
3月	令和6年度福井県人 権教育・啓発講師お よび事業所人権啓発 責任者研修会（WEB 開催）	むつみ園面会室	施設長	1	差別をなくすから手をつなぐへ
	令和6年度松原病院 公益事業 山口達也氏講演会～ セカンドチャンスを目 指して～	福井県民ホール アオッサ	係長	2	講演会
	令和6年度 障害福 祉サービス事業所等 集団指導	むつみ園 面会室 オンライン	施設長 管理者 サービス管 理責任者	1 1 2	研修制度・実地指導における主 な指摘・指導事項報酬・補助金 制度等について
	令和6年度福井県社 会就労センター協議 会職員研修会	福井県社会福祉セ ンター	支援員	1	報酬改定と加算内容の変更を受 けて施設職員はどのように理解 し、支援を行えばよいかを学ぶ と共に、意見交換を行い、支援 の質の向上を図る事を目的とす る。
	奥越地区障害者自立 支援協議会	勝山市 すこやか	課長 サービス管 理責任者	1 1	生活居住支援部会会議 グループワーク

【2】所内研修（大野荘・むつみ園）

		研修項目	研修の内容	講師	参加者(人)
4月	むつみ園 よもやま	利用者の尊厳	チェックリストを用い利用者の尊厳について考える	長谷川課長 西川係長	26
6月	むつみ園	感染発生時訓練	ノロウイルス・吐物処理	清水看護師	9
	むつみ園 よもやま	感染対策研修	ガウンテクニックの習得	清水看護師	24
7月	むつみ園	身体拘束について	障害者虐待防止法について再確認	長谷川課長	20
	よもやま	虐待防止研修	スペシャルラーニングを活用	SL	7
9月	むつみ園 よもやま	虐待防止について	スペシャルラーニングを活用 意思決定支援について学ぶ	SL	26
10月	合同	健康づくり研修	腰痛、肩こり予防	パワーリンク 飛石めぐみ氏	29
11月	むつみ園 よもやま	虐待防止について	グループワーク	加藤施設長 長谷川課長	24
	むつみ園	感染対策実践研修	実際の場面を想定しての実践研修	加藤施設長 清水看護師	12
	合同	炊き出し訓練	災害時に早く炊出しが出来るようにする	川端栄養士	7
	合同	虐待防止研修	虐待防止・身体拘束について学ぶ	ハーモニー かすみ 番場知明氏	30
12月	大野荘	感染症・食中毒 机上訓練	感染者が出た際の対応について学ぶ	貝川施設長	6
	むつみ園 よもやま	感染対策研修	ガウンテクニックの習得	清水看護師	23
1月	合同	防犯研修	利用者が特殊詐欺にあわないよう、知識・技術の向上を図る	大野警察署 中村隆太氏	42
	合同	レクリエーション 研修	参加者を取り残さないレクリエーションのコツについて学ぶ	松原病院 杉山友紀氏 川崎貴大氏	17
	よもやま	感染症発生時訓練	机上訓練	西川係長	6
	よもやま	虐待防止研修	スペシャルラーニングを活用	SL	7
2月	大野荘	職階共通内容研修	スペシャルラーニングを視聴し、利用者への接し方や姿勢について学ぶ	SL	43
	むつみ園 よもやま GH	初級職員研修	スペシャルラーニングを視聴し、利用者への接し方や姿勢について学ぶ	SL	21
	むつみ園 よもやま GH	中級職員研修	表出コミュニケーションについて学ぶ	SL	11
	むつみ園 よもやま	上級職員研修	リーダーの役割・能力について学ぶ	SL	3
	むつみ園 GH	管理者研修	ファシリテーションについて学ぶ	SL	3

2月	むつみ園	虐待防止について	むつみ園のグットゾーン及びグ レーゾーンを用いてグループワー ク実施	長谷川課長	17
3月	むつみ園 よもやま	利用者の尊厳	チェックリストを用い利用者の尊 厳について考える	長谷川課長 西川係長	23
	むつみ園	身体拘束について 守秘義務について	スペシャルラーニングを活用 身体拘束と守秘義務について ※視聴しレポート提出	SL	17

【3】復命報告

研修名	報告日	報告者
就労支援関係の研修会	4月30日	係長
三団体合同研修会 被災地域（輪島市）のボランティア報告	5月30日	係長
全国知的障害福祉関係職員研究大会	6月27日	係長 支援員
被災地（石川県）のボランティア報告	10月31日	支援員
外国人雇用について	11月21日	課長 係長
権利擁護研修会	R.7.3月27日	支援員

【4】各種研究会

（1）ケアマネ研究会

昨年度に引き続き、福井県立大学助教牛場氏に講師を依頼し4回の活動を行った。第1回目は講義、2回目・3回目は職員から担当利用者の事例検討、4回目は総括と振り返りを行った。

1回目の講義では、昨年度の振り返りと今年度のテーマについて話があった。またアセスメントに必要な視点と考え方について学んだ。

2回目の事例検討では、システム論について学んだ。相互作用する「要素」と「全体」について考え、システム内の相互作用を変化させて関係を変えたりすることで、問題解決に繋げる方法について学んだ上で事例検討を行い、強みと課題をアセスメントし支援の方法についてチームで考えた。

3回目はSAKAI式の事例検討を行った。SAKAI式は付箋でその人の強み・長所・実績等を付箋に書き出し、チームで共有し方向性や見通しを考える方法であった。問題に焦点を当てるのではなく、可能性に目を向けるように、ストレングスの視点を持つ事を学んだ。

4回目は総括の振り返りを行い、福祉コンフリクトについて考えた。コンフリクトとは反対運動や障壁の事を言い、差別や偏見・コンフリクトについて考え、その解消の為に大野福祉会として地域にどのようなアクションが起こせるのかをSWOT分析で考え、メンバーで考えた。

県立大学の牛場助教から学べる貴重な本会に参加した職員は、現場での支援に活かし、法人全体のレベルアップに繋がるように、全職員で共有できるように努めていきたい。

（２）利用者支援研究会

松原病院の公益事業として、大野福祉会と合同で研究会を実施した。

第１回は令和７年１月23日、松原病院リハビリテーション科の杉山氏に講師を依頼し「参加者を取り残さないレクのコツ ～心身の機能維持、向上を図り、スタッフの介護負担軽減につなげたい～」をテーマに、講義を実施し、大野荘、むつみ園の職員で合計14名が参加した。第２回は実践編として、２月に予定をしていたが、大野荘で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、開催が出来なかった。年度が替わるが、令和７年５月に実践編を行う予定となっている。

また、松原病院主催の講演会として、元TOKIOの山口達也氏を講師に招き、講演テーマ「セカンドチャンスを目指して」が３月２日に開催され、大野福祉会から４名の職員が参加した。

新型コロナウイルス感染症が確認されて以降、近隣の福祉施設を交えての研究会は実施されておらず、今後どのような形式で開催していくか検討が必要である。

【５】行事企画

（行事月別実施表）

月	日	大野荘	日	むつみ園
7	7	大野市福祉スポーツ大会	7	大野市福祉スポーツ大会
8	1	利用者交流レクリエーション ペタンク大会		
9	18	書道家シンガーソングライター Tomochika890 コンサート	25	日帰り旅行
	21	福井しあわせパラ☆スポーツ	21	福井しあわせパラ☆スポーツ
	26	花火打ち上げ	26	花火打ち上げ
10	22	日帰り旅行①	16	バスドライブ
	28	日帰り旅行②		
11	3～5	大野市総合文化祭	3～5	大野市総合文化祭
	12	物故者法要	12	物故者法要
12	12	クリスマス会（アトラクション・ おやつ・プレゼント配布）	25	クリスマス会（アトラクション・ おやつ・プレゼント配布）

【６】地域との交流活動

近隣の小学校の運動会に参加予定であったが、雨天のため調整が難しく参加出来なかった。

【７】ボランティア

（１）美容・理容

登録者名（グループ名）	参加人数	事業の内容
大野美容組合	12	利用者美容
大野理容組合青年部	4	利用者理容

(2) 編み物教室

登録者名（グループ名）	参加人数	事業の内容
0氏	1	編み物教室講師
1氏	1	お茶教室講師

【8】広報紙の発行

広報紙「ゆきやなぎ」では施設内外の行事や利用者の方々の日々の様子を掲載し、1月・3月の年2回発行しました。今後も、利用者の方々の日常の様子を伝えながら、施設や法人内の様々な事業などについても、多くの方々に情報発信していけるよう継続して発行できるよう努めます。

【9】教育実習

奥越明成高等学校生活福祉課福祉コース教育実習（介護実習）、福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科（ソーシャルワーク実習）を以下のように実施した。介護実習・ソーシャルワーク実習ともに学生の体調不良に伴う欠席があり、後日追加実習日を設け所定の日数に達するよう調整した。ソーシャルワーク実習は昨年度より新カリキュラムとなり、地域を基盤としたソーシャルワーク実習が求められている。実習中実際に体験できない部分については座学での学びに切り替えたりして、可能な限り新カリキュラムの学習項目を網羅できるよう対応している。

何れの実習も実習前は県外への外出等控えてもらい、実習前後1週間を含め実習中毎日検温等の健康チェック表を記録してもらうなど、十分感染症対策を講じた上で実施した。より良い実習のためには実習担当者だけではなく、職場全体の協力を得て取り組むことが不可欠であり、職員の資質向上のためにも引き続き積極的な実習生の受け入れを行っていききたい。

救護施設 大野荘

実習名	実習期間	人数
福井県立奥越明成高等学校生活福祉科福祉コース介護実習	I期：7月9～10、16～18日 II期：8月20～23、26～27日 (計11日間)	3
福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科ソーシャルワーク（社会福祉士）実習	9月17日～10月28日 (帰校日、土日祭日を除く計24日間)	1

IX 苦情解決報告

1. 苦情解決

【1】救護施設 大野荘

苦情申し立てはなかった。

【2】障害者支援施設 むつみ園

苦情申し立てはなかった。

【3】障害福祉サービス事業所 よもやま

苦情申し立てはなかった。

【4】共同生活援助事業所（グループホーム）

苦情申し立てはなかった。

【5】相談支援事業所

受付年月	苦情の内容	苦情への具体的な対応
R7.2	<p>【ふく福くらしサポート】</p> <p>＜経緯＞</p> <p>大野市自立相談支援センターふらっとを利用しているA様より、昨日の事（※）で文句を言いたいとメールが届き、ふらっとの相談員がふらっとに来所をお願いし、話をお聞きする。</p> <p>《苦情内容》</p> <p>ふく福くらしサポートにお金を借りたいと相談をした際に、担当のC職員の対応に不満があった。</p> <p>・私は多重債務者であること、精神障害者であることを忘れている。・お金を貸せないなら最初に言えばいい、時間をかけて聞く必要はない。・頭のはっきりしていない時に色々聞かれるのはつらい。・昨晚手首を切るか首を吊って死のうと思った。上記の苦情内容について、ふらっと相談員が苦情解決委員に報告がある。</p>	<p>A様にふらっとに来所して頂いて、苦情受付担当者とB相談員がA様より話を聞く。ふく福くらしサポートを利用した際に、面談したC職員の口調が強かった。A様からお金を借りる側と貸す側の力関係がある。65歳で説教をされてるみたい。との話がある。</p> <p>苦情受付担当者が、不愉快な思いをさせた事を謝罪し、今後の対応について説明すると今回の苦情について、回答しなくてもよい、話を聞いてもらえばそれでよいとの発言がある。</p> <p>後日、苦情受付シートに署名捺印をもらう。</p> <p>C職員には今回の件について、経過を伝える。</p>

※苦情となった日の相談について、自立相談支援事業のB相談員とふく福くらしサポートのC職員が2名で、聞き取りを行っている。ガソリン代がないので借りたいとの相談で、ふく福くらしサポートの相談は3回目に至る理由を聞くと「給料がすくないからです」と返答があり、同様の質問を投げかけると「もういいです」と怒って帰られた。との経過がある。

2. ひやりはっと・事故報告

【1】大野荘

ひやりはっと報告件数 105件

事故報告件数 226件

事故等の種類で、転倒・転落が事故およびひやりはっとともに最も多く、高齢化、認知機能の低下による危険を回避する能力や下肢等の筋力低下が原因でベットへの移乗時や立ち上がり時に転倒されいる事が多く。事故の発見場所が居室やホールで大半を占めている。権利擁護委員会からは、毎月、事故・ひやりはっとの件数の報告を朝礼で報告したり、事故・ひやりはっと報告の利用者名と発生場所を職員に注意喚起を行っている。

与薬・誤薬が9件と多く、職員のミスであるため、与薬・誤薬ミスについての動画にて研修し、個人個人でレポートを提出してもらい、対応等の職員全員のレポートを確認してもらった。また、朝礼後、終礼後に誤薬に気をつけるようにと必ず声掛けをする事になり、与薬・誤薬ミスの減少に繋がった。

下半期の転倒・転落の事故件数が非常に多くなっている。気温が低くなり、体の動きが悪くなったり、不調な利用者の転倒が、対策をしても何回か続いたことも原因と考えられる。利用者の筋力や調子が悪くなったことで、歩行器・車椅子対応は基より、クッションパンツの使用や個室対応、低床ベットの利用の対応を行い、身体拘束にならないような支援を検討して行った。

高齢の利用者や病弱な利用者の嚥下機能が低下し、誤嚥の事故が増えている。その度に食事形態の変更を行い、また、パン食や麺類等から、粥食に変更する等と誤嚥しないような対応を行うが、利用者の食事の愉しみが狭められたりする弊害も見られた。

事故の対応について、職員が研修等を通して、支援方法の向上や資質向上に努めていきたい。

【2】むつみ園

ひやりはっと報告件数 167件（むつみ園166件・よもやま1件・GH0件）

事故報告件数 87件（むつみ園77件・よもやま4件・GH6件）

ひやりはっと・事故報告の特徴として、例年と同じように転倒の発生が最も多く、事故件数が43件となり、全体の49%を占めた。ただし、上下半期で転倒件数を比べると、上半期は27件だったが、下半期は16件と減っている。また、昨年度は発生割合が53%だったため、転倒の危険が高い箇所の見直しや個人の特性に応じた支援の実施、その他、機能維持を目的とした体操の支援等、重点的に転倒対策を行ってきた結果が徐々に転倒防止につながり始めたと考えられる。今後もひやりはっとの段階で転倒の危険性に気付き、事故につながらないように継続して発生予防に努めていく必要がある。

転倒対策以外においても、むつみ園では、誤薬防止を目的に投薬のダブルチェックをルール化したり、利用者の特性と生活環境や職員との関わりとのミスマッチで行動障害につながらないように支援の手順や生活環境を個別に整え、また状況に応じて看護師や医師に相談したりして、利用者が安心した生活を送れるような支援に努めている。

よもやまの事故の内訳として、転倒が2件、無断外出が2件、作業に伴った外傷が1件あった。事故報告で挙げられた危険な場面および個所は、都度改善して対応している。今後も継続して、利用されている方の様子を見守り、事故の発生予防に努めていく。

GHの事故の内訳として、転倒・転落が2件、与薬・誤薬が1件、無断外出1件、その他が2件あった。GHにおいても利用者の高齢化が進んでおり、もともとの特性に加えて、心身の機能等の衰えがより表れ始める事が考えられる。安心した生活を地域で送れるように個人に応じた支援を行っていく。

【3】第三者委員の所見

(1) 伊藤 博司 委員

今回報告書の内容を見させていただいた施設内でのひやりはっと事例は、重大事故の予兆となることが多いと考えられます。

「ヒヤリとした」「ハッとした」など危険な事態が発生した時には、幸い大きな事故に至らなかったものの、職場での危機管理の観点でみると、重大事故の予兆となる重要な情報ともいえるのではないのでしょうか。

ひやりはっとは、どのような施設でも日常的に起きている事象だと思われませんが、「大きな事故にならなくてよかった」で終わらせず、その経験を活かしてひやりはっとの数を減らす努力が重要だと思われます。

施設の利用者がひやりはっとの要因となっているケースは少なくありませんが、特に多いのは、転倒やベットからの転落事故です。利用者ひとりひとりの状況や体力を把握するのはもちろんのこと、日々のコンディションを丁寧に確認して、業務に関わる事が求められます。

また、人手不足が慢性化しており、スタッフの負担が大きくなる傾向があります。そのため、疲労によるスタッフの集中力や注意力の低下が、ひやりはっとにつながるケースが見受けられます。施設的环境や設備がひやりはっとの要因となる場合も多いようです。部屋の出入り口や通路で転倒してしまう、車椅子の車体に体が引っかかってしまうといったケースでは施設の構造上の問題や設備の不備がある場合など、事情はあると思いますが、すみやかに改善する必要があります。また、すぐに改善できない 時にはどこが危ないのか事前にリスクを把握して、回避・軽減することが重要であると考えます。

(2) 羽生 三千代 委員

令和7年3月までの両施設の事故・ひやりはっと報告書を拝読し、両施設の職員さん達の御苦勞を痛切に感じました。利用者の方々は、年々、年を重ねられ体力の低下と認知機能の衰えが増すばかりでそれに伴い日常的に事故・ひやりはっと事象が増加するのは、当然かと思ひます。しかし、その都度、適切な対応で大事に至る事も少ないのは再び同様の案件が起きないよう努力されている事に敬意を表します。

事故・ひやりはっとの種類について

1. 施設共、年間を通して一番多い転倒・転落は高齢者の誰もが起こり得る案件ですが、施設としてできる事は、バリアフリーと足腰の筋トレ体操を日常的に行う事かと思ひます。

只、何気なく体操をしているだけでは体力はつかないので日常の「中に体を動かす遊びや作業を取り入れ知らず知らずのうちに足腰が鍛えられるのが何よりですが、無理かなとも思いました。（例えば 野菜や草花を育てるとか…）

2. 利用者さんの暴言・暴力・トラブル等については、認知機能が衰えてきたり発達障害的な要因があったりすると多く発生するかと思います。

言葉で言いきかせても通じない事が多いので、そのような場面に遭遇すると不慣れた職員さんだと解決できない事も多いかと思われるので利用者さんの個性を鑑みて担当されてくだされば良いかと思います。

3. 与薬・誤薬についても利用者さんが自己責任で飲む事が出来ずに起こる案件なのでこの件についても職員間での連携は大切かと思いました。

両施設共この件については健康・安全面での大切な課題として、とらえられ対応していただいているので安心です。

日常的に衣食住、全てにおいて気を配ってあげないと生活できない利用者さんのお世話は一日たりとも気が抜けない大切な職を務めて下さっている職員さん達に只々感謝です。

世間的にも弱い方々への福祉サービスは政治・行政も今後益々手厚くなっていただくよう市民として声をあげていきたいと思いました。

（3）広瀬 妙子 委員

ひやりはっとの報告は、物理的なもの、人的なもの、時間的な余裕のなさ等、様々な要因が考えられると思います。加齢による身体能力の低下や、精神的に不安定な状況にあったことなど、背景に何があったかを深掘りして、利用者の立場になって考えることで、事故を未然に防ぐことになります。両施設とも、ひやりはっとの段階で報告と対策を共有し、改善策を検討、実施していることが、「事故の起こりにくい」に、つながっていると評価します。

ただ、与薬・誤薬のミスは、人的なミスであり、投薬のダブルチェックや具体的な方法をマニュアル化することで一定の効果を発揮すると同時に、定期的な見直しを怠らないように努めて下さい。

（大野荘）

前期は、転倒・転落事故発生件数51件は、前年比と変わらないが、ひやりはっとの転倒・転落の危険性9件は、前年度比較で大幅に減少しているので、改善された物と評価できます。

後期は転倒・転落事故発生件数82件で、ひやりはっとの転倒・転落の危険性発生件数21件は、いずれも前年度比較でやや増加しており、注意が必要と思われます。

3. 意見箱

意見箱を大野荘、むつみ園、よもやまに設置しています。投書の内容は、食事メニューの希望やおやつ（饅頭を出して欲しい）提供について、カラオケ機器の導入、冷暖房の運用時間についての希望があり、毎月、権利擁護委員会にて投書を確認し、対応を検討、回答書を掲示板等に貼り、利用者に見覧してもらっています。